

三重県版事業仕分け
(公開仕分け)
事業シート

生活・文化部関係 抜粋版

目 次

若者ワーキングサポート事業費.....	1
ニートサポート事業費.....	5
若者自立総合支援事業費.....	9
交通安全研修センター管理運営費.....	15
地域文化活動発信事業費.....	39

事業シート (概要説明書)

予算事業名	若者ワーキングサポート事業費	事業開始年度	平成19年度
上位施策事業名	職業能力の開発と勤労者生活の支援	担当部局	生活・文化部
根拠法令	なし	担当室	勤労・雇用支援室
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	グループ名	勤労福祉G
事業の必要性・実施の背景	事業を始めた平成19年度の時点では、学校を卒業して就職した若者が3年以内に離職する割合が高くなっていったことへの対応であったが、平成20年のリーマンショック後の平成21年度からは、高校生の求人が大幅に減少して就職することが難しくなったことへの対応も含めたものとなっている。		
目的 (何をどうするために)	就職が厳しく、若者の早期の離職が続く中、就職を希望する高校生が在学中に企業等から採用の内定を得ることに加え、就職した若者が会社等に定着し、次代を担う人材として成長している。		
目標 (何がどうなれば達成か)	就職を希望するほとんどの生徒が高校在学中に企業等の内定を得て、就職後の多くの人がその職場で働き続けている。		
対象 (誰・何を対象に)	これから就職を目指そうとする若者(高校生等)		
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施		
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託 又は <input type="checkbox"/> 指定管理 (委託先又は指定管理者: 県内7商工会議所、三重労使雇用支援機構)		
	<input type="checkbox"/> 補助金〔直接・間接〕(補助先: _____ 実施主体: _____)		
	<input type="checkbox"/> 貸付(貸付先: _____) <input type="checkbox"/> その他(_____)		
事業概要 事業内容 (手段、手法など) ※当該事業以下に細事業がある場合は、事業費とともに記載	<p>1 高校生のインターンシップ支援事業(4,340千円) (委託:商工会議所) 若者の雇用のミスマッチを減らし、職場定着の促進につなげられるよう、県内の商工会議所、教育委員会と連携し、受入事業所の開拓等インターンシップ支援を行う。</p> <p>2 若手人材育成・定着支援事業(6,358千円) (委託:三重労使雇用支援機構)</p> <p>(1) 企業現場等見学事業 就職活動を翌年に控える高校2年生等が県内企業の現場を自分で見て、聞いて、感じる等の体験を通じて、より確かな職業観、就業意識を育む力を身につけ、業種や企業を選択する力を身につけることを目的に貸切バスを用いた学校単位等での企業見学事業を実施する。</p> <p>(2) 就職実務セミナー事業 就職を目前に控えた内定後の生徒等が、社会人として基礎的な知識を身につけ、職業意識を高めるために、専門講師を派遣して、学校毎のニーズに即した実務セミナーを実施する。</p> <p>(3) 若手人材育成サポート事業 若手従業員の育成・定着のための企業等での取組等を促進するため、各事業所に専門のアドバイザー等を派遣して、企業での若手人材育成担当者等を対象に定着のための具体的な手法等の説明・指導を行う。</p> <p>3 働くルール等啓発事業(1,131千円) (直接実施) これから初めて働こうとする若者にぜひ知っておいて欲しい基本的な働くルール等をハンドブックとして作成し、高校生に直接配布するとともに、フォローとして、学校に向向き、同ハンドブックを用いた「就職実務セミナー」を実施する。</p>		
	関連事業 (同一目的事業等)	キャリア教育バージョンアップ事業費 (うち、高校生インターンシップの拡充)	

事業シート(概要説明書)

予算事業名		若者ワーキングサポート事業費				事業開始年度		平成19年度	
		23年度(予算)		22年度(決算)		21年度(決算)		20年度(決算)	
コスト	報酬	0千円		0千円		0千円		0千円	
	委託料	11,635千円		11,202千円		7,638千円		5,192千円	
	需用費	24千円		465千円		551千円		1,536千円	
	役務費	120千円		248千円		144千円		480千円	
	その他	50千円		12千円		0千円		245千円	
	事業費合計	11,829千円		11,927千円		8,333千円		7,453千円	
	人件費	担当正職員	0.2人	1,802千円	0.2人	1,904千円	0.2人	1,894千円	0.2人
	臨時職員等	0人	0千円	0人	0千円	0人	0千円	0人	千円
	人件費合計	0.2人	1,802千円	0.2人	1,904千円	0.2人	1,894千円	0.2人	1,869千円
	総事業費	13,631千円		13,831千円		10,227千円		9,322千円	
財源 内訳	国庫支出金	千円		千円		千円		千円	
	地方債	千円		千円		千円		千円	
	その他特財	千円		千円		44千円		千円	
	一般財源	11,829千円		11,927千円		8,289千円		7,453千円	
	財源合計	11,829千円		11,927千円		8,333千円		7,453千円	
事業実績	【活動指標名】				単位	H22年度	H21年度	H20年度	
	活動実績		高校生のインターンシップ支援事業への参加者数		人	1,337	1,232	775	
			企業現場見学会への高校生の参加者数		人	1,169	807	-	
			就職実務セミナーへの高校生の参加者数		人	2,882	1,357	-	
	効率指標 (事業費/活動指標)	総事業費 / 参加者数		円	2,567	3,011	12,028		
事業成果	【成果指標名】				単位	H22年度	H21年度	H20年度	
	成果実績 (事業目標達成状況)		事業アンケートで「参考になった」と答えた割合		%	92	91	-	
			高卒就職1年以内の離職者の割合		%	未	13.3	17.3	
			高校新卒予定者の就職内定率		%	98.0	96.3	97.4	
事業の自己評価 (今後の事業の方向性、課題等)		<p>本事業がめざす若者の早期離職の防止は、その指標である高卒就職1年以内の離職者の割合が平成19年度の事業実施後、毎年低くなってきている。</p> <p>本事業のうち、インターンシップ研修については、生徒が自らの進路について真剣に考えるきっかけとなっており、職業意識の向上につながっている。また、企業見学会や就職実務セミナーについても、学校現場のニーズとマッチして参加する生徒数が増加しているとともに、参加した生徒のアンケートで90%を超える生徒が参考になったと回答するなど、事業の効果は高いといえる。</p>							
比較参考値 (他自治体での類似事業の例など)				平成20年	平成21年度	平成22年度			
		高校新卒予定者の就職内定率(全国)		95.6%	93.9%	95.2%			
		高卒就職1年以内の離職者の割合(全国)		19.5%	17.1%	-			
特記事項 (事業の沿革等)		なし							

委託・指定管理・補助 対象団体シート (概要説明書)

予算事業名	若者ワーキングサポート事業費	事業開始年度	平成19年度	
団体名	桑名・鈴鹿・津・松阪・上野・尾鷲・熊野商工会議所			
団体への支出根拠 (選定経過等、支出先の妥当性)	委託先は、事業所を会員とする唯一の地域経済団体であり、本事業の狙いである県内高等学校生徒の職業意識の確立とキャリアアップを行うために必要な就業実習(インターンシップ)の場となる受入事業所を確保する上で、必要な条件(①委託先は会員数が多く、さらに地域の有力な事業所が会員となっている。②委託先と事業所間は、経営指導活動等により、会員事業所と日常的に信頼関係があることから、インターンシップ受入事業所の確保にあたって効率的な実施が期待できる。)を備えている。			
委託料・補助金等の用途 (平成22年度分) <small>※委託料は設計ベースのため、前頁の決算額に於ける委託料と一致しない。</small>	委託料・内 補助金等	費目	概要	金額
		会員事業所対象説明会事業費	会場借上料	127千円
		受入事業所確保事業所訪問事業費	旅費、通信運搬費、広告料	449千円
		受入事業所支援事業費	実習生指導料、	1,750千円
		関係行政機関連絡調整事業費	会場借上料	20千円
		高等学校講師派遣事業費	講師謝金、講師旅費	654千円
		その他事業目的達成事業費	資料印刷費、	233千円
委託料・補助金 総額			3,233千円	

※以下、法律で財務情報の公表が義務付けられている団体(出資比率50%以上の団体、社会福祉協議会等)については必須記入。その他、必要と思われる場合に記入。

団体概要										
	資本金	千円	役員 職員	(単位:人)	常勤	非常勤	監事			
	市出資金	千円		役員	出向/OB	出向/OB	出向/OB			
	出資比率	%		職員						
団体の収入概要 (平成22年度)	項目	金額	概要(詳細等)							
	国からの財政支出金	千円								
	県からの財政支出金	千円								
	市町村からの財政支出金	千円								
	委託料・指定管理料	千円								
	補助金	千円								
	その他	千円								
総計	千円									
団体の支出概要 (平成22年度)	項目	金額	概要(詳細等)							
	事業費	千円								
	管理費	千円								
	人件費	千円								
総計	千円									
利益剰余金 (または繰越欠損金)	平成22年度	千円								

委託・指定管理・補助 対象団体シート (概要説明書)

予算事業名	若者ワーキングサポート事業費	事業開始年度	平成19(21)年度	
団体名	三重労使雇用支援機構			
団体への支出根拠 (選定経過等、支出先の妥当性)	委託先には、①高校の希望に合致する見学受入先の確保、②セミナーに適する講師の選定・確保、③企業や学校等との調整、④専門アドバイザーの派遣を必要とする企業等の的確な把握が求められ、ノウハウを有し、実績があることから生活・文化部競争入札等審査会の審議を経て決定する。			
委託料・補助金等の 用途 (平成22年度分) <small>※委託料は設計ベースのため、前頁の 決算額における委託料と一致しない</small>	委託料・内 訳 補助金等	費目	概要	金額
		企業現場見学事業費	貸切バス代(30台)、保険料、調整業務経費等	3,480千円
		就職実務セミナー事業費	講師謝金、講師旅費、調整業務経費等	2,180千円
		PR経費	チラシ作成費(3000枚)、高校訪問経費等	490千円
		諸経費		615千円
		消費税		339千円
			千円	
	委託料・補助金 総額			7,104千円

※以下、法律で財務情報の公表が義務付けられている団体（出資比率50%以上の団体、社会福祉協議会等）については必須記入。その他、必要と思われる場合に記入。

団体概要	資本金		千円	役員 職員	(単位:人)	常勤	非常勤	監事
	市出資金		千円		役員	(出向/OB)	(出向/OB)	(出向/OB)
	出資比率		%		職員			
団体の収入概要 (平成22年度)	項目		金額	概要(詳細等)				
	国からの財政支出金		千円					
	県からの財政支出金		千円					
	市町村からの財政支出金		千円					
	委託料・指定管理料		千円					
	補助金		千円					
	その他		千円					
その他		千円						
総計		千円						
団体の支出概要 (平成22年度)	項目		金額	概要(詳細等)				
	事業費		千円					
	管理費		千円					
	人件費		千円					
総計		千円						
利益剰余金 (または繰越欠損金)	平成22年度		千円					

事業シート (概要説明書)

予算事業名	ニートサポート事業費	事業開始年度	平成18年度
上位施策事業名	地域の実情に応じた多様な雇用支援	担当部局	生活・文化部
根拠法令	子ども・若者育成支援推進法	担当室	勤労・雇用支援室
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	グループ名	若者就労支援担当
事業の必要性・実施の背景	<p>厚生労働省は、若年無業者(いわゆるニート)数を60万人と試算しており、三重県内においては、約9000人と推定されている。若者の自立の遅れは、若者本人だけの問題ではなく、社会全体の課題であると考えられ、教育、NPO、企業、行政等多面的な取組が必要である。</p> <p>県においては、平成17年9月に、関係部局で構成する「若年者自立支援検討会議」を設立し、若者の自立支援に取り組むこととなり、平成18年度よりニートサポート事業が開始された。また、同年度にNPOからの協働事業提案を受け、教育、NPO、企業、行政等による「三重県若者就労支援研究会」(現在の「みえ若者就労支援ネットワーク」)が発足した。</p> <p>これらの取組の結果、若年無業者の中核的な支援機関として、平成19年9月に三重県若者自立支援センターを開所した。</p>		
目的 (何をどうするために)	<ul style="list-style-type: none"> 若年無業者やその家族に対して、家族向けセミナーの開催、本人や家族等への支援情報の提供、自立訓練講座の開催、就労体験機会を提供する。 教育、NPO、企業、行政等と連携して、若者自立支援のためのネットワークを拡充する。 		
目標 (何がどうなれば達成か)	<ul style="list-style-type: none"> 若年無業者が、自己の意欲、能力に応じて職業的に自立している。 教育、NPO、企業、行政等、多様な主体による若年無業者を支援するネットワークが構築されている。 		
対象 (誰・何を対象に)	若年無業者、若年無業者の家族、若者自立支援の関係者		
事業概要 実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施		
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託(一部) (委託先: 財団法人三重県労働福祉協会、特定非営利活動法人 いせコンビニネット、特定非営利活動法人 市民社会研究所、(株)アイメディア)		
	<input type="checkbox"/> 補助金[直接・間接] (補助先: _____ 実施主体: _____) <input type="checkbox"/> 貸付(貸付先: _____) <input type="checkbox"/> その他(_____)		
事業内容 (手段、手法など)	<p>1. ニートサポート事業(11,254千円)</p> <p>(1) みえ若者就労支援ネットワークの拡充(委託: 財団法人三重県労働福祉協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> 若者の就労を地域全体で連携して支援していくため、多様な主体で構成 <p>(2) 家族向けセミナーの開催(委託: 財団法人三重県労働福祉協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> 若年無業者や家族を対象にしたセミナーを開催 <p>(3) 自立訓練講座の実施(直接実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 若年無業者や家族を対象に、自立訓練講座や傾聴訓練講座、社会体験の実施など個人の動機づけや行動の段階に応じた支援を実施 <p>(4) 就労体験機会の提供(委託: 特定非営利活動法人 いせコンビニネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 若年無業者を対象に、NPO、事業所、農場等における就労体験を実施 <p>※当該事業以下に細事業がある場合は、事業費とともに記載</p> <p>2. 若者自立支援体制確立事業(緊急雇用創出事業)(10,334千円)</p> <p>(委託: 特定非営利活動法人 市民社会研究所)</p> <p>(1) 北勢地域における自立訓練講座の開催</p> <p>(2) 北勢地域におけるネットワークの構築及び支援マップづくり</p> <p>3. 就労体験機能強化事業(緊急雇用創出事業)(5,967千円)</p> <p>(委託: 株式会社アイメディア)</p> <p>(1) 就労体験者のアンケート調査</p> <p>(2) 随時就労体験先事業所の開拓</p>		
関連事業 (同一目的事業等)	若者自立総合支援事業費		

事業シート (概要説明書)

予算事業名		ニートサポート事業費				事業開始年度		平成18年度	
		23年度 (予算)		22年度 (決算)		21年度 (決算)		20年度 (決算)	
コスト	報酬	0 千円		0 千円		0 千円		0 千円	
	委託料	24,315 千円		13,196 千円		7,005 千円		7,544 千円	
	需用費	1,642 千円		1,019 千円		1,070 千円		858 千円	
	役務費	48 千円		0 千円		48 千円		463 千円	
	その他	1,550 千円		898 千円		548 千円		874 千円	
	事業費合計	27,555 千円		15,113 千円		8,671 千円		9,739 千円	
人件費	担当正職員	1 人	9,008 千円	1 人	9,517 千円	1 人	9,471 千円	1 人	9,343 千円
	臨時職員等		千円		千円		千円		千円
	人件費合計	1 人	9,008 千円	1 人	9,517 千円	1 人	9,471 千円	1 人	9,343 千円
総事業費		36,563 千円		24,630 千円		18,142 千円		19,082 千円	
財源 内訳	国庫支出金	千円		千円		千円		千円	
	地方債	千円		千円		千円		千円	
	その他特財	16,301 千円		6,724 千円		千円		千円	
	一般財源	11,254 千円		8,389 千円		8,671 千円		9,739 千円	
	財源合計	27,555 千円		15,113 千円		8,671 千円		9,739 千円	
事業実績	【活動指標名】		単位	H22年度	H21年度	H20年度			
	地域若者サポートステーションの箇所数 (三重県内) (H23年度 4箇所)		箇所	3	3	2			
	地域若者サポートステーション(三重県内) の利用者数		人	5,121	4,739	2,673			
	就労支援ネットワーク加入団体数 (H23.8末 31団体)		団体	29	28	25			
	家族向けセミナー等参加者数		人	248	204	284			
	自立訓練講座参加者数		人	334	309	373			
効率指標 (事業費/活動指標)		総事業費 / 地域若者サポートステーションの利用者数		円	4,810	3,828	7,139		
事業成果	【成果指標名】		単位	H22年度	H21年度	H20年度			
	進路決定等の率		%	35.4	37.5	32.0			
	自立訓練講座の受講者アンケート 「役に立った」、「少し役に立った」の割合		%	96.4	96.6	97.0			
事業の自己評価 (今後の事業の方向性、課題等)		<ul style="list-style-type: none"> ・NPOからの協働事業提案をきっかけに設立された「みえ若者就労支援ネットワーク」は、教育、NPO、企業、行政等が参加し、定期的な勉強会の開催などを通じて、今まで個別に対応していた若者への支援を連携して行えるネットワークを構築してきた。このネットワーク参加団体から「地域若者サポートステーション」(※)が三重県内に4箇所設置されるなど、連携が進んだ。 ・地域若者サポートステーションが4箇所設置されたことから、身近な場所で専門的な相談業務等を受けられる体制が整備された。今後は、三重県若者自立支援センターを中核に、地域若者サポートステーション、市町、関係機関等の一層の連携強化が必要である。 ・様々な困難を抱える若年無業者は、各種制度の谷間となっており、支援が長期化する傾向がある。教育、福祉、医療等との一層の連携が求められる。 ・若年無業者の自立のためには、家族が重要な役割を果たしている。今後は、若年無業者の最大の支援者である家族支援を強化していく。 							
比較参考値 (他自治体での類似事業の例など)		近隣府県の「地域若者サポートステーション」(※)の設置状況 愛知県6 岐阜県1 静岡県3 奈良県2 和歌山県2 京都府2 滋賀県1 ※地域若者サポートステーション 厚生労働省がNPO等に委託する若年無業者の相談機関(全国110箇所)							
特記事項 (事業の沿革等)		平成18年 若者就業サポートステーション・みえ開所 平成19年 三重県若者自立支援センター開所 平成20年 いせ若者就業サポートステーション開所 平成21年 いが若者サポートステーション開所 平成23年 北勢地域若者サポートステーション開所							

委託・指定管理・補助 対象団体シート (概要説明書)

予算事業名	ニートサポート事業費	事業開始年度	平成18年度	
団体名	財団法人三重県労働福祉協会			
団体への支出根拠 (選定経過等、支出先の の妥当性)	ニートサポート事業(みえ若者就労支援ネットワークの拡充及び家族向けセミナーの開催) 本業務委託は、みえ若者就労支援ネットワークの事務局運営と、家族向けセミナーの運営を目的としている。 委託先には、①若年無業者(ニート)に対する理解、②若年無業者(ニート)の関係機関と連携するノウハウ、③ 各種事務に関する事務処理体制、④みえ若者就労支援ネットワークの事業を熟知していることが求められる。こ のため、地域若者サポートステーションを運営する財団法人三重県労働福祉協会と随意契約を行った。			
委託料・補助金等 の用途 (平成22年度分) ※委託料は設計ベースのため、前員の 決算額における委託料と一致しない	委託料・内 訳 補助金等	費目	概要	金額
		人件費	スタッフ人件費	552千円
		旅費	スタッフ旅費(家族向けセミナー)	18千円
		会議室使用料	家族向けセミナー、ネットワーク会議の会議室	11千円
		その他	講師謝金、印刷費用	149千円
		諸経費		37千円
		消費税		39千円
			委託料・補助金 総額	806千円

※以下、法律で財務情報の公表が義務付けられている団体(出資比率50%以上の団体、社会福祉協議会等)については必須記入。その他、必要と思われる場合に記入。

団体概要	資本金		千円	役員 職員	(単位:人)	常勤	非常勤	監事
	市出資金		千円		役員			
	出資比率		%		職員			
団体の収入概要 (平成22年度)	項目		金額	概要(詳細等)				
	国からの財政支出金		千円					
	県からの財政支出金		千円					
	市町村からの財政支出金		千円					
	委託料・指定管理料		千円					
	補助金		千円					
	その他		千円					
その他		千円						
総計		千円						
団体の支出概要 (平成22年度)	項目		金額	概要(詳細等)				
	事業費		千円					
	管理費		千円					
	人件費		千円					
総計		千円						
利益剰余金 (または繰越欠損金)	平成22年度		千円					

事業シート(概要説明書)			
予算事業名	若者自立総合支援事業費	事業開始年度	平成19年度
上位施策事業名	地域の実情に応じた多様な雇用支援	担当部局	生活・文化部
根拠法令	子ども・若者育成支援推進法	担当室	勤労・雇用支援室
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	グループ名	若者就労支援担当
事業の必要性・実施の背景	<p>厚生労働省は、若年無業者(いわゆるニート)数を60万人と試算しており、三重県内においては、約9000人と推定されている。若者の自立の遅れは、若者本人だけの問題ではなく、社会全体の課題であると考えられ、教育、NPO、企業、行政等多面的な取組が必要である。</p> <p>県においては、平成17年9月に、関係部局で構成する「若年者自立支援検討会議」を設立し、若者の自立支援に取り組むこととなり、平成18年度よりニートサポート事業が開始された。また、同年度にNPOからの協働事業提案を受け、教育、NPO、企業、行政等による「三重県若者就労支援研究会」(現在の「みえ若者就労支援ネットワーク」)が発足した。これらの取組の結果、若年無業者の中核的な支援機関として、平成19年9月に三重県若者自立支援センターを開所した。</p>		
目的 (何をどうするために)	若年無業者やその家族に対して、教育、NPO、企業、行政等の多様な主体による若者の自立に向けた包括的・継続的な個別の支援を行う体制を整備し、その中核的な機関として、三重県若者自立支援センターを運営する。		
目標 (何がどうなれば達成か)	若年無業者の自立に向けた支援体制が整備されている。		
対象 (誰・何を対象に)	若年無業者、若年無業者の家族、若者自立支援の関係者		
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施		
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託(緊急雇用分) (委託先 財団法人三重県労働福祉協会)		
	<input type="checkbox"/> 補助金[直接・間接] (補助先: _____ 実施主体: _____)		
	<input type="checkbox"/> 貸付(貸付先: _____) <input type="checkbox"/> その他(_____)		
事業内容 (手段、手法など)	<p>1. 若者自立総合支援事業(7,413千円) (直接実施)</p> <p>(1) 総合相談業務</p> <ul style="list-style-type: none"> 若年無業者の相談を受ける総合相談機関(三重県若者自立支援センター)の設置・運営 カウンセリングによる自立への支援を行い、発達障がい、精神疾患等、より専門的な支援が必要な場合は、適切な専門機関を紹介するなど、相談者にあった支援へのコーディネート機能を担う。 <p>(2) 高校連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校の中退者や進路未定で高校を卒業した者に対して、継続的な自立支援が行える体制の拡充。 <p>(3) 地域支援者の養成、配置</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域(市町)において、若年無業者の情報を把握し、要支援者に支援機関の情報提供等を行い、支援機関へ繋ぐ役割を担うユースアドバイザー、ユースサポーターの養成。 <p>(4) 市町における若者自立支援にかかる取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域若者サポートステーションと市町の連携促進、市町支援体制整備の取組促進、市町職員等の研修 		
	<p>※当該事業以下に細事業がある場合は、事業費とともに記載</p> <p>2. 在宅者等アウトリーチ事業(緊急雇用創出事業)(9,413千円)</p> <p>(委託: 財団法人三重県労働福祉協会)</p> <p>(1) 自立支援機関を訪れることができない若年無業者に、訪問相談を実施</p> <p>(2) 東紀州地域での出張相談</p>		
関連事業 (同一目的事業等)	ニートサポート事業費		

事業シート(概要説明書)

予算事業名		若者自立総合支援事業費				事業開始年度		平成19年度	
		23年度(予算)		22年度(決算)		21年度(決算)		20年度(決算)	
コスト	報酬	3,941	千円	3,941	千円	3,941	千円	3,941	千円
	委託料	9,413	千円	5,311	千円	0	千円	0	千円
	需用費	991	千円	533	千円	625	千円	967	千円
	役務費	473	千円	259	千円	520	千円	267	千円
	その他	2,008	千円	1,617	千円	1,552	千円	1,481	千円
	事業費合計	16,826	千円	11,661	千円	6,638	千円	6,656	千円
	人件費	担当正職員	1	人	9,008	千円	2	人	19,034
	臨時職員等		人		千円		人		千円
	人件費合計	1	人	9,008	千円	2	人	19,034	千円
	総事業費	25,834	千円	30,695	千円	25,580	千円	25,342	千円
財源 内訳	国庫支出金		千円		千円		千円		千円
	地方債		千円		千円		千円		千円
	その他特財	9,436	千円	5,334	千円	17	千円	24	千円
	一般財源	7,390	千円	6,327	千円	6,621	千円	6,632	千円
	財源合計	16,826	千円	11,661	千円	6,638	千円	6,656	千円
事業実績	【活動指標名】		単位	H22年度	H21年度	H20年度			
	三重県若者自立支援センター利用者数		人	929	933	766			
	ユースアドバイザー・ユースサポーター登録者数		人	122	108	86			
	連携した高等学校の数		校	61	45	20			
	総事業費 / 三重県若者自立支援センター利用者数		円	33,041	27,417	33,084			
事業成果	【成果指標名】		単位	H22年度	H21年度	H20年度			
	進路決定等の率		%	35.4	37.5	32.0			
	初回面談時から変化のあった人の割合(進路決定等を除く)		%	77.4	—	—			
事業の自己評価(今後の事業の方向性、課題等)		<p>本事業の取組の結果、「地域若者サポートステーション」(※)が三重県内に4箇所設置された。多様な主体の連携による地域全体で若年者を包括的に支援する機能が強化され、身近な場所で相談業務等を受けられる体制が整備された。</p> <p>今後は、三重県若者自立支援センターを核に、地域若者サポートステーション、市町、関係機関等の一層の連携強化が求められる。</p> <p>※地域若者サポートステーション 厚生労働省がNPO等に委託する若年無業者の相談機関(全国110箇所)</p>							
比較参考値(他自治体での類似事業の例など)		<p>近隣府県の「地域若者サポートステーション」(※)の設置状況 愛知県6 岐阜県1 静岡県3 奈良県2 和歌山県2 京都府2 滋賀県1</p>							
特記事項(事業の沿革等)		<p>平成17年 9月若年者自立支援検討会議を設置 平成17年11月三重県若者就労支援勉強会を開催 平成18年 4月二一トサポート事業実施 平成19年 4月若者自立総合支援事業実施 平成19年 9月三重県若者自立支援センター開所</p>							

委託・指定管理・補助 対象団体シート (概要説明書)

予算事業名	若者自立総合支援事業費	事業開始年度	平成19年度	
団体名	財団法人三重県労働福祉協会			
団体への支出根拠 (選定経過等、支出先の妥当性)	在宅者等アウトリーチ事業(緊急雇用創出事業) 本事業は、若年無業者(ニート)に対し、訪問相談を行うことにより自立を支援するものである。また、合わせて東紀州地域での出張相談を目的としている。 委託先には、①若年無業者(ニート)の相談に関するノウハウ(相談、家庭訪問、出張相談)が必要であり、全国的な活動が可能であることが求められる。そのため、生活・文化部競争入札等審査会の審議を経て、地域若者サポートステーションを運営する財団法人三重県労働福祉協会と随意契約を行った。			
委託料・補助金等の 用途 (平成22年度分) ※委託料は設計ベースのため、前頁の 決算額における委託料と一致しない	委託料・内 補助金等	費目	概要	金額
		人件費	相談員2名分(通勤手当、社会保険料含む)	3,274千円
		使用料	リース車両、パソコン、高速道路利用料等	1,010千円
		旅費	出張相談等の交通費	404千円
		その他	チラシ印刷、ガソリン代、通信運搬費等	554千円
		諸経費		524千円
		消費税		289千円
			委託料・補助金 総額	6,055千円

※以下、法律で財務情報の公表が義務付けられている団体(出資比率50%以上の団体、社会福祉協議会等)については必須記入。その他、必要と思われる場合に記入。

団体概要	資本金	千円	役員 職員	(単位:人)	常勤	うち (出向/OB)	非常勤	うち (出向/OB)	監事	うち (出向/OB)
	市出資金	千円		役員						
	出資比率	%		職員						

団体の収入概要 (平成22年度)	項目	金額	概要(詳細等)
	国からの財政支出金	千円	
県からの財政支出金	千円		
市町村からの財政支出金	千円		
委託料・指定管理料	千円		
補助金	千円		
その他	千円		
総計	千円		

団体の支出概要 (平成22年度)	項目	金額	概要(詳細等)
	事業費	千円	
管理費	千円		
人件費	千円		
総計	千円		

利益剰余金 (または繰越欠損金)	平成22年度	千円	
---------------------	--------	----	--

若者自立総合支援事業 事業シート（概要説明書）
事業成果に関する参考資料

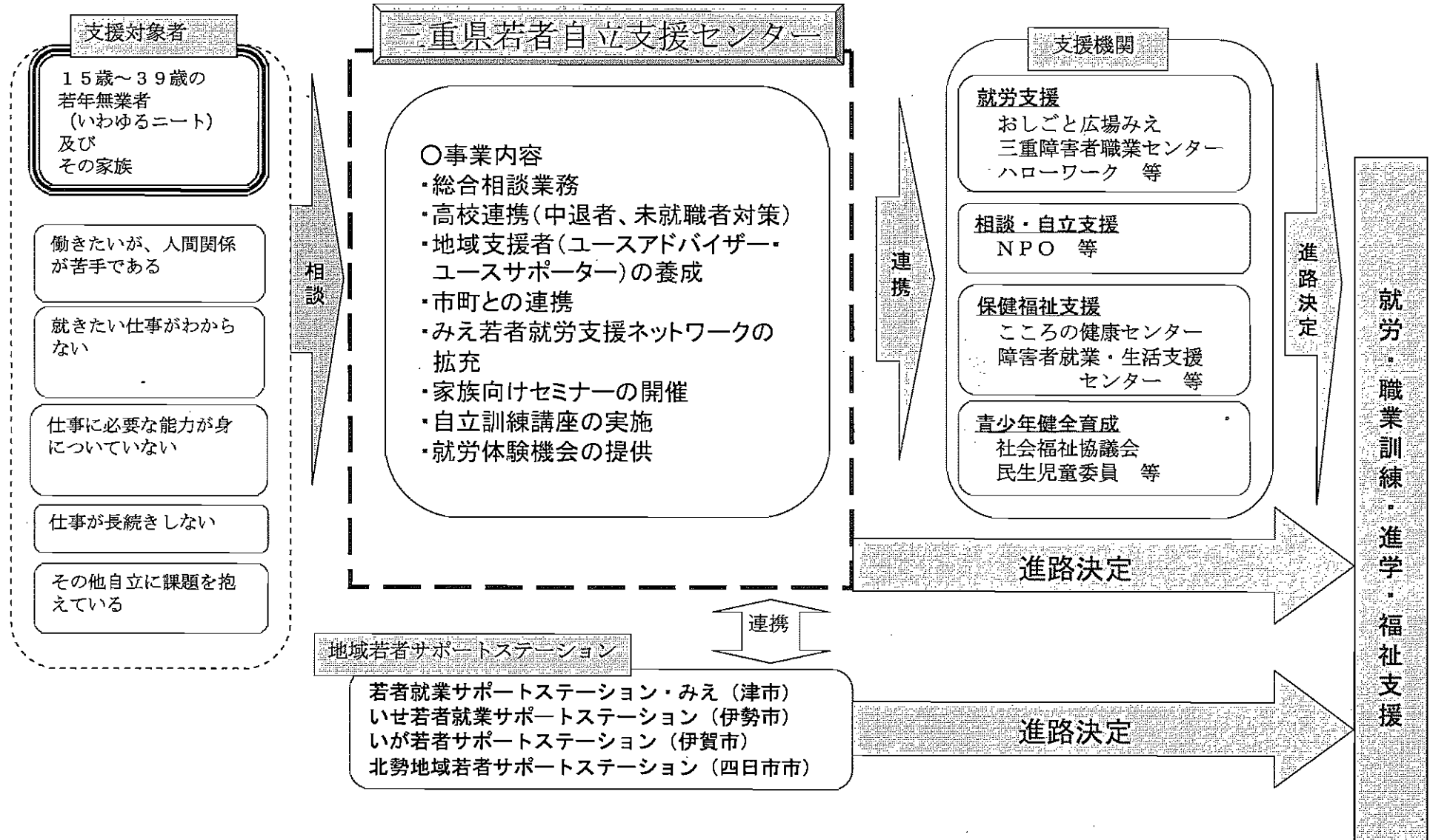
初回面談時から変化のあった人の割合（進路決定等を除く）77.4%
初回面談時と直近面談時を比較し、支援段階（下記表）が上昇した人の割合

若年無業者の支援段階

段階	内容
1	進路についてのイメージがなく、興味・関心もない段階。
2	進路について漠然としたイメージを持ち始めた、あるいは興味や関心が出てきた段階。まだ明確な方向性を持つには至っていない。
3	進路についての方向性が見えてきて、情報収集をできる段階。 しかし、進路決定のための行動には移せていない。
4	進路への方向性が見えてきた（3の段階）上で、就職や進路決定に向けて具体的に動き始めることができる段階。
5	進路決定（就職、職業訓練、進学など）した段階。

参考：厚生労働省キャリア形成支援室作成資料

三重県若者自立支援センターの支援の流れ



事業シート (概要説明書)

予算事業名	交通安全研修センター管理運営費	事業開始年度	平成7年度
上位施策事業名	交通安全対策の推進	担当部局	生活・文化部
根拠法令	三重県交通安全研修センター条例	担当室	交通安全・消費生活室
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	グループ名	交通安全G
事業の必要性・実施の背景	平成2年に県内の運転免許人口が100万人を超え、また平成5年には自動車保有台数も100万台を超えるなど、本格的な「県民皆免許」、「車社会」を迎え、交通事故の増加が深刻な社会問題となった。このため、交通指導取締りの強化、道路交通環境の整備、県民の交通マナーの向上、交通安全意識の高揚が重要な課題となり、従来の受身型・講義中心の交通安全教育から参加・体験・実践型の体系的な交通安全教育の推進が求められた。		
目的 (何をどうするために)	受講者が、安全に道路を通行するために必要な技能と知識を体験に基づいて習得し、その必要性を理解するうえで有効な手法が、「聞く」「見る」「体験する」という人間の五感に訴える技法である。この3技法を組み合わせた学習方法による交通安全教育を実施し、交通ルールを身につけ、さらに交通の場での安全行動を習得させることにより、交通事故から県民の生命及び身体を守る。		
目標 (何がどうなれば達成か)	県民一人ひとりの交通安全意識が高まり、交通ルールの遵守、正しい交通マナーの実践が習慣化され、県内の交通事故による死傷者が減少する。		
対象 (誰・何を対象に)	幼児から高齢者までのすべての県民		
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施		
	<input type="checkbox"/> 業務委託 又は <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 (委託先又は指定管理者: 財団法人三重県交通安全協会 職員7人)		
	<input type="checkbox"/> 補助金〔直接・間接〕 (補助先:) 実施主体:)		
	<input type="checkbox"/> 貸付 (貸付先:) <input type="checkbox"/> その他 ()		
事業概要 事業内容 (手段、手法など) ※当該事業以下に細事業がある場合は、事業表とともに記載	<p>1 交通安全に関する教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 参加・体験・実践型の交通安全研修事業 対象者の年齢層に応じたカリキュラムに基づく参加・体験・実践型の研修の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ シミュレーターや視聴覚機器等による研修、実際に自転車、車に乗車しての研修 ・ 対象別は、幼児、小学校(低学年)、小学校(高学年)、中学生、高校生、高齢者(歩行・自転車)、高齢ドライバー、一般ドライバー、身体障がい者、外国人 ○ 指導者養成・資質向上事業 地域・職場等で交通安全教育を推進する交通安全指導者の養成・資質向上を図るための研修の実施 ○ 遠隔地等での出前型交通安全教育(出前研修)事業 交通安全研修センター(以下、センターという。)の利用が困難な地域・環境の県民を対象とした出前研修を実施 <p>2 交通安全に関する情報及び資料の収集及び提供に関する業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページ等を活用した情報発信 ○ 展示スペースの活用 ○ 施設のPR活動 <p>3 調査研究事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 有効な交通安全教育手法の調査・研究 ○ 交通事故情報等の収集・分析と活用 <p>4 センターの維持管理に関する業務</p> <p>5 その他管理運営上必要と認める業務</p> <p>【参考: 当該団体への支出根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 三重県議会の議決(指定管理者指定、各年度の予算) ○ 平成18年度から指定管理者制度導入 		
関連事業 (同一目的事業等)	交通弱者の交通事故防止事業		

事業シート（概要説明書）

予算事業名		交通安全研修センター管理運営費				事業開始年度	平成7年度			
コスト	事業費	23年度（予算）		22年度（決算）		21年度（決算）		20年度（決算）		
		人件費	報酬	千円		千円		千円		千円
委託料	41,968		千円	41,968	千円	41,968	千円	47,090	千円	
	需用費	千円		千円		千円		千円		
	役務費	千円		千円		千円		千円		
	その他	千円		千円		千円		千円		
	事業費合計	41,968 千円		41,968 千円		41,968 千円		47,090 千円		
財源	内訳	担当正職員	0.05 人	450 千円	0.05 人	476 千円	0.05 人	474 千円	0.05 人	467 千円
		臨時職員等	人	千円	人	千円	人	千円	人	千円
	人件費合計	0.05 人	450 千円	0.05 人	476 千円	0.05 人	474 千円	0.05 人	467 千円	
	総事業費	42,418 千円		42,444 千円		42,442 千円		47,557 千円		
	国庫支出金	千円		千円		千円		千円		
	地方債	千円		千円		千円		千円		
	その他特財	千円		千円		千円		千円		
	一般財源	41,968 千円		41,968 千円		41,968 千円		47,090 千円		
	財源合計	41,968 千円		41,968 千円		41,968 千円		47,090 千円		
事業実績	活動実績	【活動指標名】			単位	H22年度	H21年度	H20年度		
		別紙のとおり								
	効率指標 (事業費/活動指標)	総事業費	/	センター利用者数 (出前研修除く)	円	1,047	1,025	1,313		
事業成果	成果実績 (事業目標達成状況)	【成果指標名】			単位	H22年度	H21年度	H20年度		
		センター利用者数（出前研修除く）		人		40,531	41,411	36,213		
		指導者養成・資質向上講座受講者数		人		669	592			
		利用者満足度		%		95.8	95.8	96.8		
		○ 目標値（平成21年度から平成23年度） ・ センター利用者数 40,000人 ・ 指導者養成・資質向上講座受講者数 500人 ・ 利用者満足度 95%								
事業の自己評価 (今後の事業の方向性、課題等)	○ 第2期指定管理（21年度、22年度）において、成果目標（3項目）を達成し、特に県内全域において交通安全教育を普及させていくために必要な指導者の養成については、目標を上回り、県内全域の交通安全教育のレベルアップに資するものと評価できる。 また、アンケートによる利用者満足度も高い評価を得ており、利用者のニーズに合致した研修を提供しているものと考えている。今後は、センター及び研修内容のPR活動を積極的に行い、県内各地からの利用者の促進を図ることが必要である。									
	○ 県内の交通安全教育の「核」として、広域的、専門的な見地に基づき、 ・ 身を以て、交通安全教育を享受できる施設として、幼児から高齢者までの年齢層に対応できる参加・体験・実践型の施設として、機能の高度化（老朽化した機器のリニューアル等）を図る。 ・ 県内全域で交通安全教育が実施されるよう、質の高い指導者を継続して養成する。									
比較参考値 (他自治体での類似事業の例など)	○ 栃木県交通安全教育センター … 平成7年開設、交通安全協会（指定管理）、職員10人 利用者 49,400人（うち団体2,846人）、予算額 55,700千円 ○ 富山県交通公園交通安全博物館・交通安全自転車練習コース … 昭和61年開設、交通安全協会設置・管理、職員4人利用者 40,689人（うち団体1,378人）、予算額 21,197千円 ○ 石川県安全運転研修所（有料） … 平成2年開設、交通安全協会（指定管理）、職員6人 利用者 5,992人（うち団体530人）、予算額 34,639千円（いずれも平成22年度の実績）									
	特記事項 (事業の沿革等)	○ 施設は、平成7年5月に三重県運転免許センターの4階に開設した。 ○ 平成17年4月から8月 外部の有識者7人で構成する「センターあり方検討委員会」においてセンターの必要性等について検討の結果、県内の交通安全教育の「核」となる施設として必要性が示された。 ○ 平成7年の開設以来、交通事故死者数は約45.6%減少（H7 248人 → H22 135人）し、シートベルトの着用率が向上（H7 80.4% → H22 95.5%）している。								

(別紙)

第1期指定管理(平成18年9月～平成21年3月)

目標指標		20年度 目標値	20年度 実績
利用者トータル数(人) (a+b)		44,000	55,601
施設利用者 数(人)	屋外一般利用者数(人)	3,500	5,479
	屋内一般利用者数(人)	25,000	25,508
	団体利用者数(人)	6,000	5,226
	施設利用計(人) (a)	34,500	36,213
団体利用数 (団体)	団体研修利用団体数(団体)	380	367
	出前研修利用団体数(団体)	40	64
	利用団体数 計(団体)	420	431
地域活動事 業(回)	出前研修	40	43
	地域啓発活動	12	21
	地域活動計	52	64
地域活動事 業(人)	出前研修	4,500	6,073
	地域啓発活動	5,000	13,315
	地域活動計 (b)	9,500	19,388
ホームページアクセス回数(回)		13,400	17,129
ホームページ更新回数(回)		10	22
広報誌の発行回数(回)		4	5
施設を利用した県民へのPR事業の実施回数(回)		2	2
交通事故情報等の収集・分析等を行い、調査研究をする回数(回)		2	2
利用者満足度(%)		95	96.8
利用後の意識の変化度(%)		98	
研修受講直後アンケートによる			98
2回目受講者アンケートによる			98
研修センター見直し検討委員会回数(回)		1	1

(別紙)

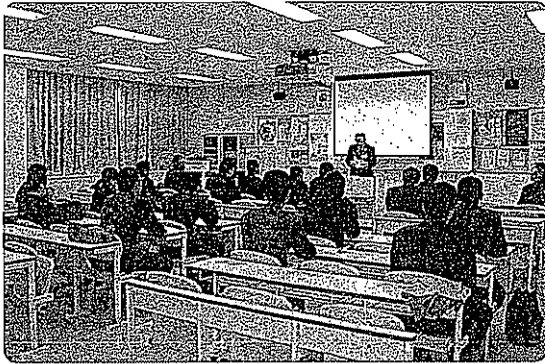
第2期指定管理(平成21年4月～平成24年3月)

目標指標		22年度 目標値	22年度 実績	21年度 目標値	21年度 実績
利用者トータル数(出前研修除く)(人) (a+b)		40,000	40,531	40,000	41,411
施設利用者 数(人)	屋外一般利用者数(人)	6,350	4,451	6,400	5,199
	屋内一般利用者数(人)	27,000	30,503	27,000	30,600
	団体利用者数(人)	6,150	4,908	6,100	5,020
	施設利用計(人) (a)	39,500	39,862	39,500	40,819
団体利用数 (団体)	高齢者研修利用者数(人)	400	413	380	438
	福祉団体研修利用者数(人)	200	205	170	294
	高齢者・福祉団体利用計(人)	600	618	550	732
	団体研修利用団体数(団体)	300	344	300	343
指導者養成資質向上事業(人) (b)		500	669	500	592
指導者養成資質向上事業(回)		20	41	20	38
地域活動事業回数 (回)	出前研修(回)	30	59	30	60
	地域啓発活動(回)	6	39	6	33
	地域活動計(回)	36	98	36	93
地域活動事業 (人)	出前研修(人)	1,350	6,998	1,350	5,880
	地域啓発活動(人)	4,250	17,890	4,250	17,462
	地域活動計(人)	5,600	24,888	5,600	23,342
ホームページアクセス回数(回)		13,500	16,957	13,500	17,400
ホームページ更新回数(回)		10	41	10	31
広報誌の発行回数(回)		4	4	4	4
施設を利用した県民へのPR事業の実施回数 (回)		2	3	2	4
指導者研修追跡調査回数(回)		1	1	1	0
交通事故情報等の収集・分析等を行い、調査 研究をする回数(回)		1	1	1	1
利用者満足度(%)		95	95.8	95	95.8
利用後の意識の変化度(%)		98		98	
研修受講直後アンケートによる			98.0		97.8
2回目受講者アンケートによる			99.7		99.9
事業評価検討委員会回数(回)		1	1	1	1
交通安全手法研究会(回)		1	1	1	1

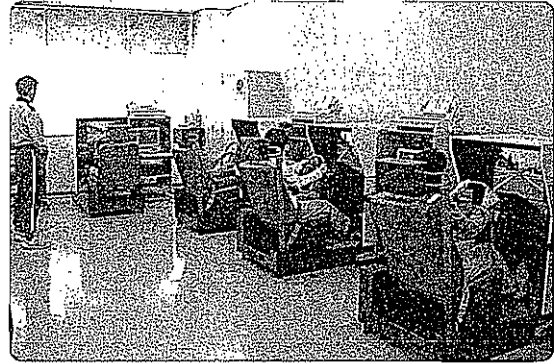
研修内容のご紹介



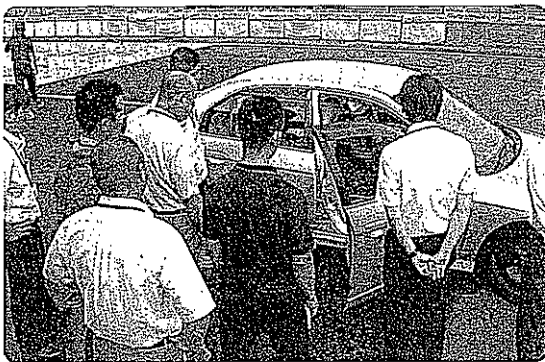
午前…9時30分～12時00分 午後…13時30分～16時00分
※ 研修時間及び内容については、ご要望に応じてカリキュラムを作成いたします。



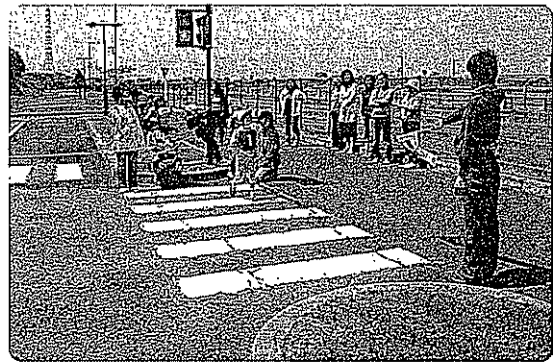
◎ 交通安全講話・ビデオ上映（視聴覚室）◎
交通事故の発生状況、運転者の心構え等。
〔所要時間 約30分〕



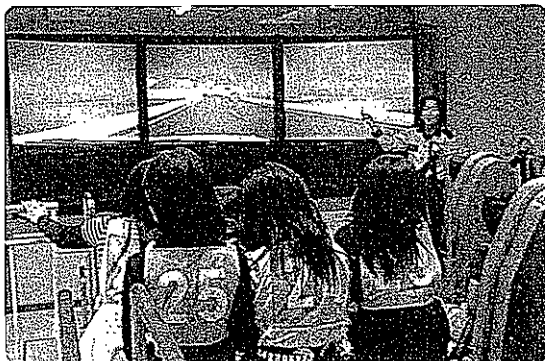
◎ 危険予測と緊急回避模擬体験（シミュレータ室）◎
高齢者及びドライバーを主な対象とし、自分の運転特性を認識できる機材により、自身の運転傾向を確認しましょう。
〔所要時間 約20分〕



◎ 自動車体験コース（屋外施設）◎
滑りやすい路面での急ブレーキ体験、狭路走行、スラローム走行、安全運転基本チェック等を行います。
〔所要時間 約60分〕



◎ 歩行・自転車研修（屋外交通公園）◎
安全な歩行、正しい自転車の乗り方等を屋外模擬コースを使って学習。ダミー人形を使った飛出し実験等を行います。
〔所要時間 約60分〕



◎ 四輪事故体験シミュレーション（展示ゾーン）◎
大型画面でのよくある交通事故の状況と対策を学習します。
〔所要時間 約20分〕



◎ 白バイ“白鷹”展示コーナー（展示ゾーン）◎
見て・触れて・記念写真を撮ろう！

聞く・見る・体験ある

交通安全研修のご案内

三重県交通安全研修センターでは、「聞く・見る・体験する」をキーワードに、さまざまな対象の皆さんに応じた交通安全研修を実施しており、多くの企業、官公庁、団体、学校等が利用されています。

一般のドライバーの皆さんには、交通事故防止に向けての講話・視聴覚、シミュレーター機器を使用して危険予測や緊急回避を考える研修、実際に車に乗車しての狭路走行や急制動での危険回避、スラロームでのハンドル操作、滑りやすい路面でのブレーキ操作等を体験していただき、事故を防止するためにどうしたらよいかを身をもって考えていただく研修を行います。

また、高齢者の皆さんや子供たちには、安全な歩行や自転車の乗り方についての研修も準備しています。

研修センターでの研修は、すべて無料です！！

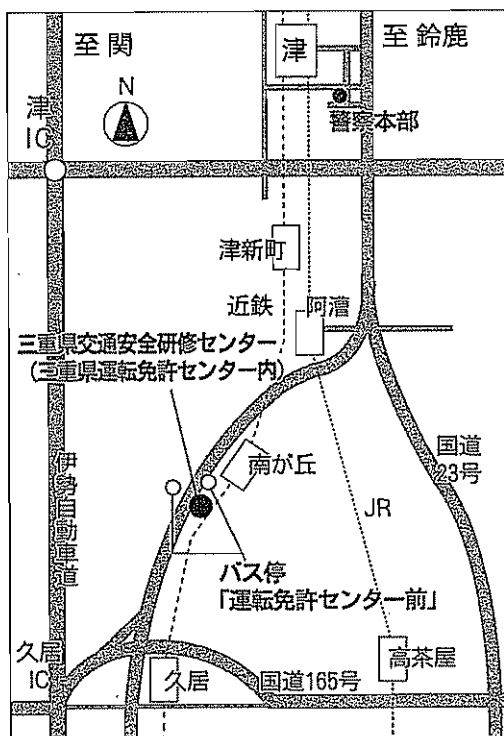
① 研修できる日と時間

月曜日から金曜日まで、通常午前又は午後の2時間30分程度、指導者向け研修は3時間程度、祝祭日・年末年始はお休みです

② その他

- ・このような内容に重点をおいてほしいというご要望があれば、対応可能なものについてはご相談に応じます。
- ・ホームページで、予約状況がご覧いただけます。

<http://www.safetyplaza-mie.com>



お問合せ

三重県交通安全研修センター
(セーフティプラザみえ)

指定管理：財団法人三重県交通安全協会

津市垂水2566 三重県運転免許センター 4階

TEL 059-224-7721

出前研修のご紹介

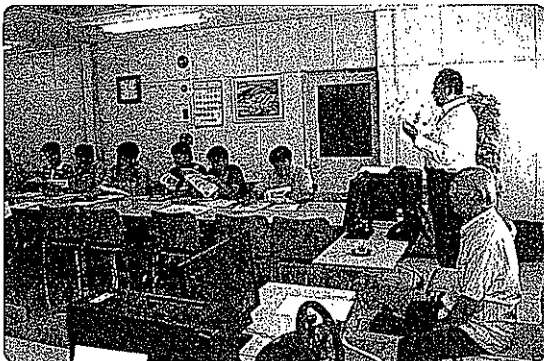
※ 研修時間及び内容については、ご要望に応じてカリキュラムを作成いたします。



◎ 交通安全講話・ビデオ（子ども向け）◎
安全な歩行、安全な自転車の乗り方等を学習します。



◎ 大型車（トラック）による死角を確認 ◎
トラックの運転席から見えにくいところ（死角）を確認し、巻き込み事故の危険を学習します。



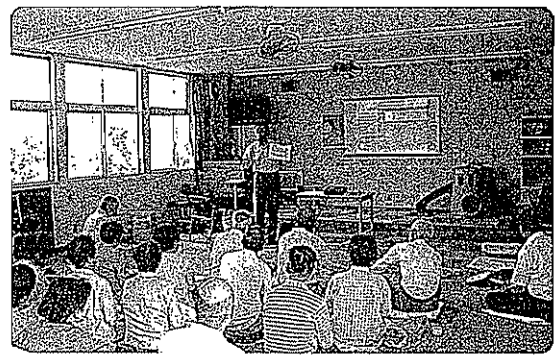
◎ 交通安全講話（一般向け）◎
ドライバー等交通社会の一員として基本的なルールとマナーの大切さを学習します。（簡易型シュミレータを使用した学習も可能です）



◎ 自転車走行研修（技能・法規）◎
安全な歩行、自転車の乗り方等を屋外模擬コースを使って学習します。



◎ 歩行研修 ◎
道路における基本的な交通ルールを学習すると共に交通安全の大切さを学習します。



◎ 交通安全講話（高齢者）◎
交通事故の発生状況から安全・快適に過ごす方法を一緒に考えましょう。

※ ダミー人形を使った飛び出し事故実験につきましては、研修場所により希望に添えないこともあります。ご相談下さい。

交通安全出前研修のご案内

三重県交通安全研修センターでは、「聞く・見る・体験する」をキーワードに、さまざまな対象の皆さんに応じた交通安全研修を実施しており、多くの企業、官公庁、団体、学校等が利用されています。

一般のドライバーの皆さんには、交通事故防止に向けての講話・視聴覚、シミュレーター機器を使用して危険予測や緊急回避を考える研修、実際に車に乗車しての狭路走行や急制動での危険回避、スラロームでのハンドル操作、滑りやすい路面でのブレーキ操作等を体験していただき、事故を防止するためにどうしたらよいかを身をもって考えていただく研修を行います。

また、高齢者の皆さんや子供たちには、安全な歩行や自転車の乗り方についての研修も準備しています。

しかし、「津市垂水の三重県交通安全研修センターまで出て行くのはちょっと無理」という皆さんのために、「親子交通安全教室」「高齢者のための交通安全教室」「飲酒運転防止講座」等センターのスタッフが地域に出向いて研修を行います。

必要に応じて、視聴覚機材や自転車等もこちらで準備することが可能です。研修会場の設定等で皆さんにご協力をお願いするほかは、すべて研修センターのスタッフが行います。

地域での出前研修は、すべて無料です！！

お気軽にお問合せ、ご相談下さい。

① 研修できる日と時間

月曜日から金曜日まで、通常午前又は午後の30分から2時間程度

(研修内容により異なります。)

祝祭日・年末年始はお休みです

② その他

- ・このような内容に重点をおいてほしいというご要望があれば、対応可能なものについてはご相談に応じます。
- ・ホームページでも一部内容がご覧いただけます。

<http://www.safetyplaza-mie.com>

お 問 合 せ

三重県交通安全研修センター（セーフティプラザみえ）

指定管理：財団法人三重県交通安全協会

津市垂水2566 三重県運転免許センター 4階

TEL 059-224-7721

セーフティプラザみえ

SAFETY PLAZA MIE

(三重県運転免許センター内に併設)



● 聞く 見る 体験 楽しく学ぶ交通安全マナー ●

三重県交通安全研修センター

MIE PREFECTURAL CENTER FOR TRAFFIC SAFETY

三重県交通安全研修センター (セーフティプラザみえ) は

「安全で快適な郷土三重」を目指して、幼児から高齢者までを対象とした交通安全生涯学習施設です。

三重県における運転免許人口は、約125万人に達するとともに、自動車保有台数は約146万台を超え、本格的な「県民皆免許」・「車社会」となっています。

そうした状況の中、「安全で快適な郷土三重」を目指して、県民の交通マナーや交通安全意識の高揚を目的に幼児から高齢者までを対象とした交通安全生涯学習施設です。

この施設は、視聴覚教材、交通安全研修機器を備えた屋内施設、自転車走行、危険路におけるハンドル・ブレーキ操作などを体験する屋外施設からなり、「聞く」「見る」「体験する」という人間の5感に訴える3技法を組み合わせた学習法により、研修者が楽しみながら身をもって、交通ルール・マナーを学ぶことができます。

施設概要

●所在地／三重県津市大字垂水2566番地

●敷地面積／屋内施設 1,339.00㎡
屋外施設 12,821.63㎡

●施設

屋内施設
体験コーナー
講習室 (60人用)
視聴覚室 (60人用)
シミュレータ室
事務所

屋外施設
交通公園
自動車コース
四輪車体験コース
多目的広場

●総事業費／約9億9千万円

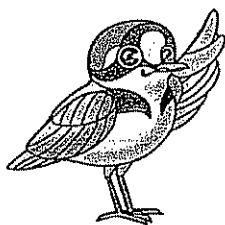
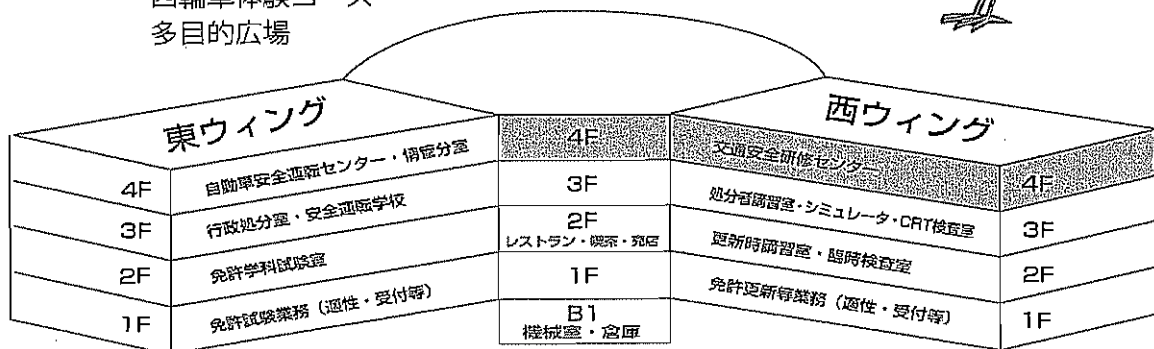
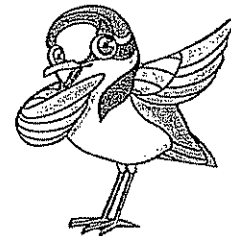
●展示機器費／約3億1千万円

●管理・運営／財団法人 三重県交通安全協会
連合会 (委託)

●職員数、7名

●設置主体／三重県

●入館料／無料



運転免許センター概要

◆所在地 〒514-8518 津市大字垂水2566番地

◆敷地面積 約100,000㎡

◆建物延面積

○庁舎棟 延べ約11,022㎡ (鉄骨平屋建て地上4階・地下1階)

○付属棟 車庫 延べ約1,060㎡ (鉄骨平屋建て)

二輪車置場 延べ約160㎡ (鉄骨平屋建て)

◆コース面積

○技能試験コース 延べ約40,500㎡

○原付コース 延べ約2,000㎡

○体験コース 延べ約7,100㎡

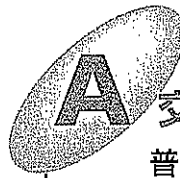
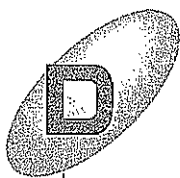
○自転車コース 延べ約2,100㎡

◆駐車場面積 延べ15,900㎡ (約500台)

6つのゾーンを拠点に、楽しく交通ルール・マナーが学習できます。

セーフティ三重21

屋外施設案内や交通安全に関するビデオソフトが自由に見れるコーナーです。

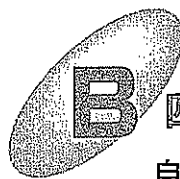
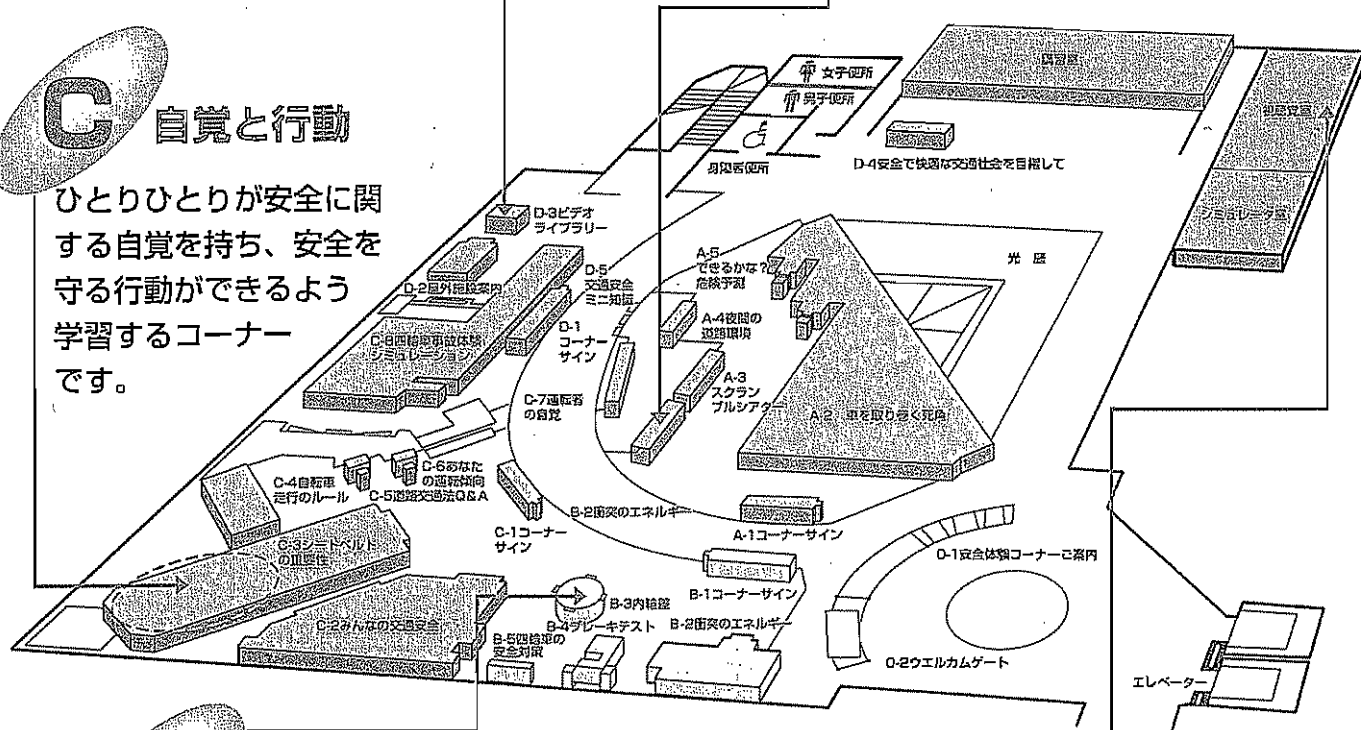


交通環境に潜む危険

普段の生活において、交通に関する様々な危険が潜んでいます。その危険について学習するコーナーです。

C 自覚と行動

ひとりひとりが安全に関する自覚を持ち、安全を守る行動ができるよう学習するコーナーです。

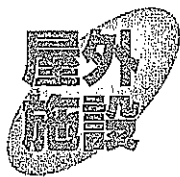


B 四輪車の構造と特性

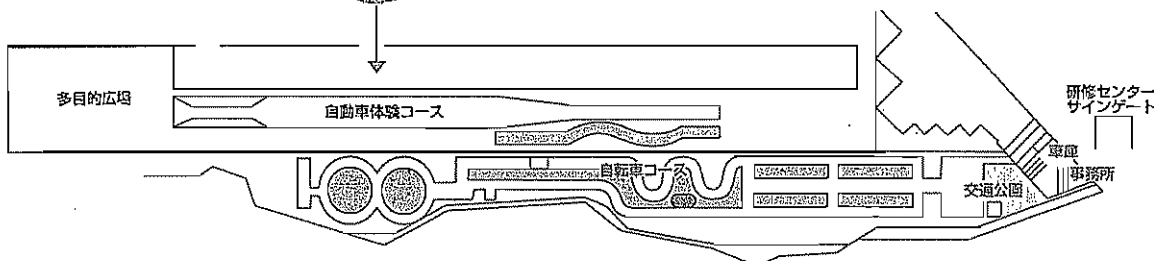
自動車に関する構造や特性を紹介し、どんな危険があるかを学習するコーナーです。



講習室
視聴覚室
シミュレータ室



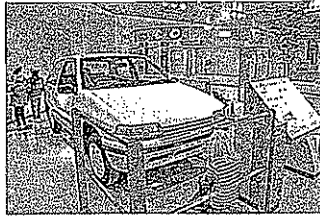
自動車体験コース
自転車コース
交通公園



A

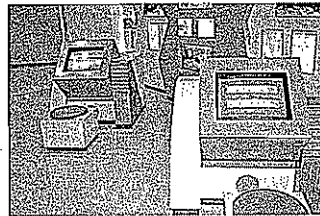
交通環境に潜む危険

普段の生活の中にある様々な交通に関する危険について学習しましょう。



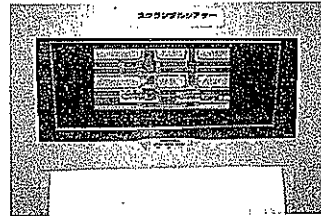
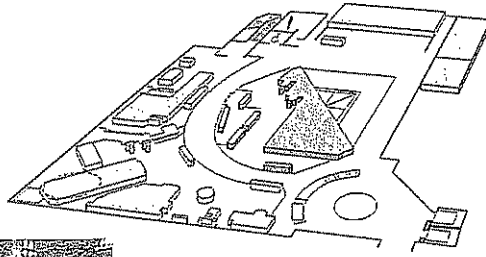
車を取りまく死角

停車中の乗用車の構造から生じる死角と、交差点での右方向の死角について、実車とマネキン人形を用いて学習します。車の背後で遊ぶことや交差点付近での飛び出し等を防ぐ効果が期待されます。



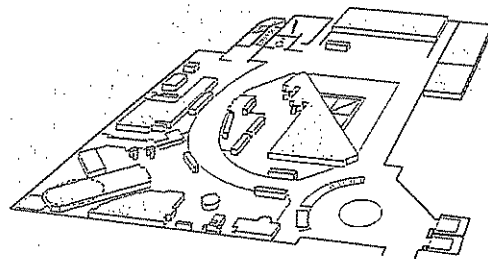
できるかな？危険予測

タッチパネルとグラフィックパネルにより、交通環境に潜む危険箇所をすばやく見つけ、注意して通行することの重要性を学習します。



スクランブルシアター

交差点付近の立体模型を用いて、自動車・二輪車・歩行者の動きを立体虚像システムにより解説しながら各々の危険箇所を再現し、交差点付近の左折時の巻き込み事故や右折時のサンキュー事故などの事故発生状況を学習します。



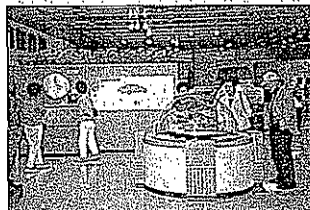
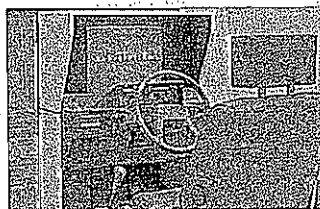
衝突のエネルギー

衝突の衝撃力をビルからの落下にたとえて、1/20のスケールの模型とCCDカメラの画像により、衝突のエネルギーの強さを学習します。走行中の車に接触すること、事故時の運転者に及ぼすダメージの大きさを実感し、いかに危険であるかを学ぶことができます。



ブレーキテスト

ブレーキの反応体験装置（ドライビングシミュレータ）により、実際のブレーキ操作によって様々な危険があることを学習します。運転者は特に、その日の体調や集中力の差によって、道路上の障害物に対する認知・判断・操作に必要な時間が異なることを学びます。

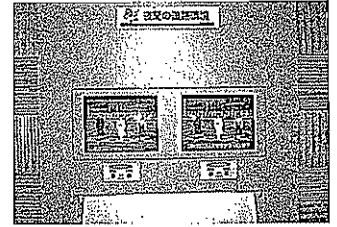
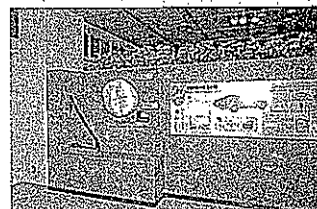


内輪差

トラックの模型と軌跡の電飾表示により、トラック等のホイールベースが長い車に生じる内輪差の仕組みとその危険性について学習します。運転者は内輪差を配慮した運転、歩行者は巻き込まれ事故の回避を学びます。

四輪車の安全対策

万一の際の事故回避又は被害を最小限にし、乗員の命を守るための様々な装置、エアバック・サイドインパクトバー・ABSシステムについて紹介し、それらの機器が安全に対していかに重要かを学習します。



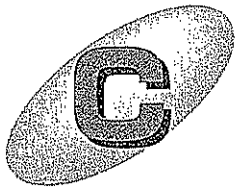
夜間の道路環境

2台のカラーモニターにより、夜間と昼間の走行風景を対比して、夜間の危険性を学習します。歩行者、自転車利用者に対し、夜間外出時の暗い服の色や無灯がいかにか危険が認識させ、運転者に対しては安全速度を守ることの大切さを理解させることができます。

B

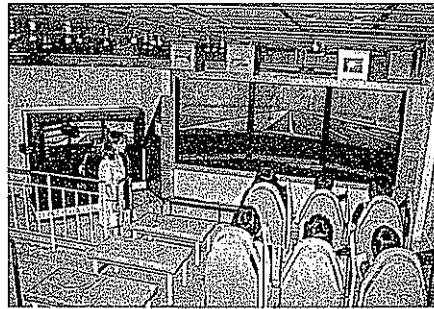
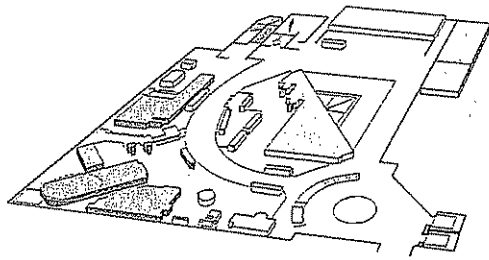
四輪車の走行の特徴

自動車に関する構造や特性を理解し、安全運転について学びましょう。



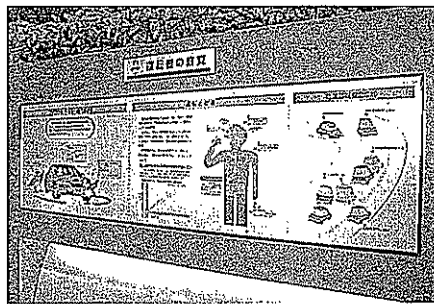
自覚と行動

ひとりひとりが安全について自覚し、安全な交通社会の実現目指して考え、行動しましょう。



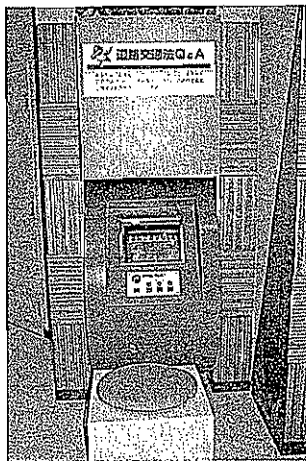
四輪車事故体験シミュレーション

シアター形式のドライビングシミュレータにより、体験者と見学者が同時に事故を体験し、市街地走行における走行のポイントを学習します。四輪車の運転者が自覚を持った行動の実践ができるよう促します。



運転者の自覚

自転車・自動車の点検方法と市街地、特に交差点付近の安易な駐車による渋滞発生や死角による事故誘発について説明します。シアター形式のドライビングシミュレータにより、体験者と見学者が同時に事故を体験し、市街地走行における走行のポイントを学習します。



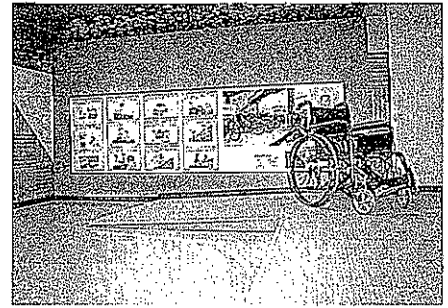
道路交通Q&A

パーソナルコンピューターによる質問と解説から、実用的な道路交通法を学習します。対象別に、子供用・ドライバー用・自転車用の3テーマに分かれて行い、正解数に応じた得点と評価も表示されます。



あなたの運転傾向は？

パーソナルコンピューターによる質問と解説から、自分の行動や状況に対する気持ちの変化についてチェックし、普段意識することの少ない自分の運転傾向を把握します。その傾向を知って、常に意識することで事故を未然に防げることをアドバイスします。



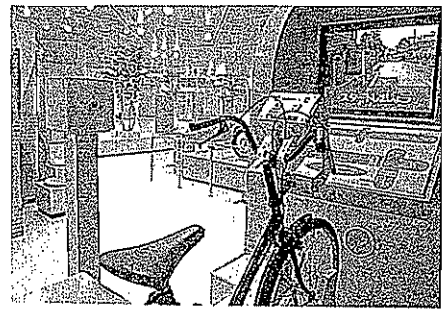
みんなの交通安全

パネルと実物の車椅子により、交通社会における助け合いの重要性を学習します。健常者だけでなく、車椅子利用者や盲人等様々な人が安心して利用できるようなお互いが協力し、思いやりの心を持って助け合うことの大切さを理解できます。



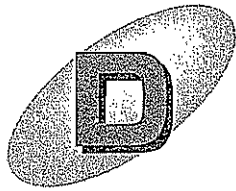
シートベルトの重要性

クラッシュカーと映像によりシートベルトの着用の有無が生命を守るうえでいかに重要であるかを体験し、着用の必要性を学習します。運転者・同乗者の自覚としてシートベルトの着用を習慣づけることを確認させます。



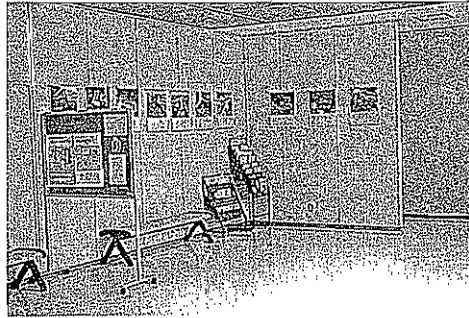
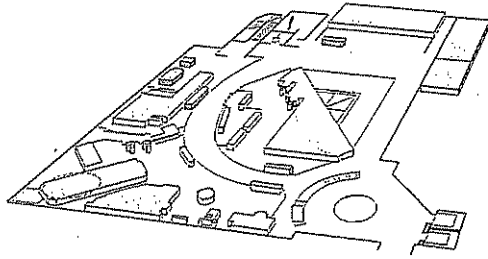
自転車走行ルール

自転車シミュレーション装置により、状況に応じた正しい自転車の乗り方を学習します。主な対象は小学生が中心で、守らなければならない基本的ルール（安全な乗車の知識や態度）を身につけることができます。



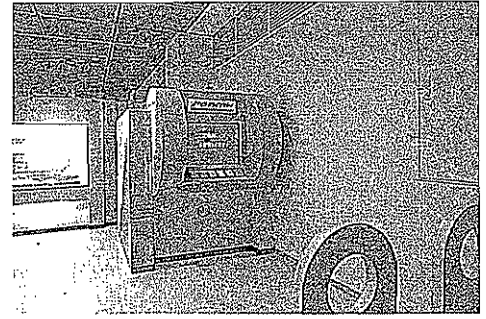
セーフティ三重21

交通安全情報などを提供するコーナーです。



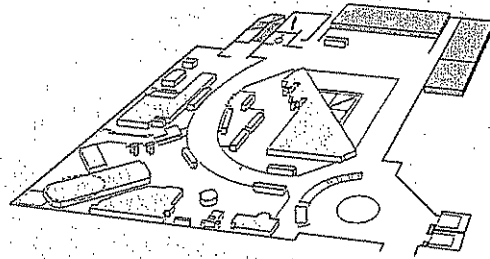
安全で快適な交通社会を目指して

三重県における各種交通安全対策や道路整備計画、モータースポーツイベントなどの情報の提供、生活課交通安全室での行事業内やお知らせなど、「セーフティ・マイタウンみえ」に対する様々な取り組みを随時紹介します。



ビデオライブラリー

三重県における各種交通安全対策への取り組み及び行事を記録した映像と、交通安全教育ソフトを自由に観ることのできるビデオライブラリーです。



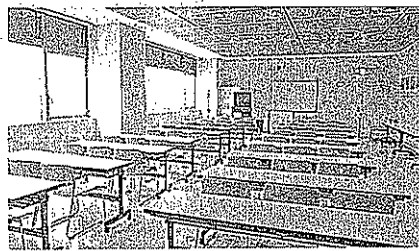
研修施設

研修施設

視聴覚機器や、シミュレーション機器を活用し、交通安全に関する研修を実施する施設です。

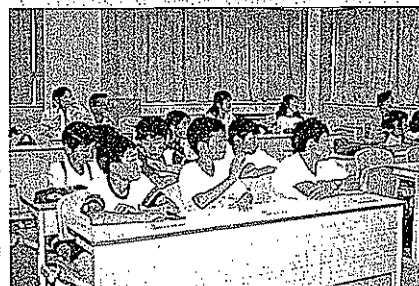
講習室

研修のオリエンテーションなどに利用できる施設です。



シミュレータ室

高齢者及びドライバーを主な対象とし、ブレーキ反応テストによるチェックや自分の運転特性を認識できる機材により、自身の運転傾向を学習する施設です。



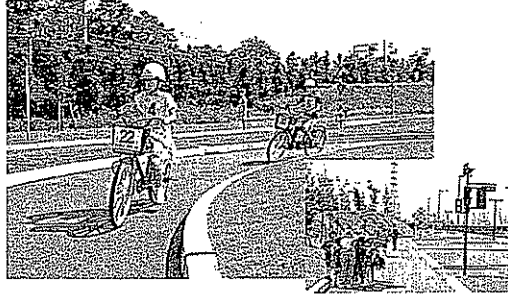
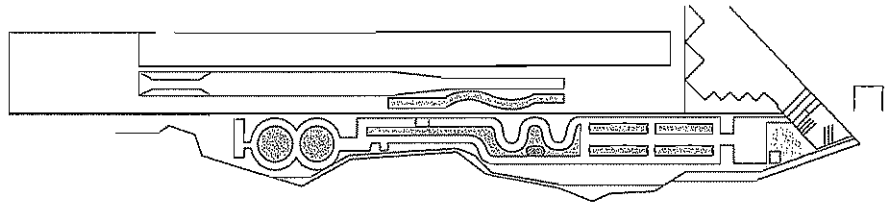
視聴覚室

視聴覚機器（LD、OHP、アナライザー等）を利用した交通安全ソフトにより、交通社会への安全について学習する施設です。

屋外施設

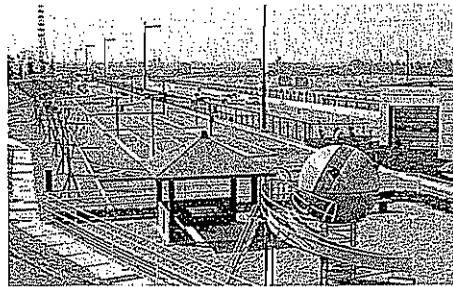
屋外施設

屋内の体験コーナーで学習したあとは、屋外に出て自転車・自動車に試乗して、実体験学習をしましょう。



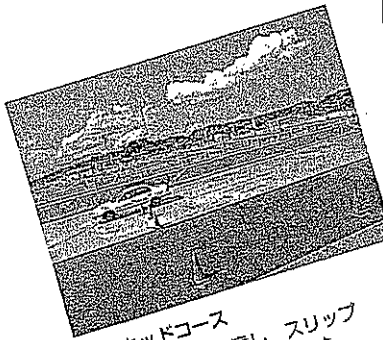
自転車コース

子供達が遊びながら学べる自転車コースです。実際に自転車に乗り体験しながら学習できます。

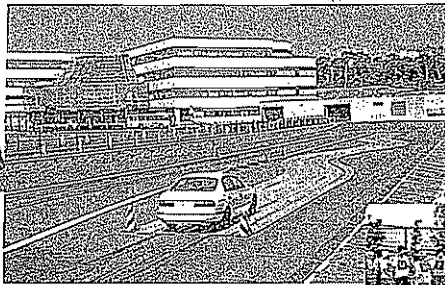


交通公園

簡単な遊具を設置した公園です。子供達の遊び場となる場所です。



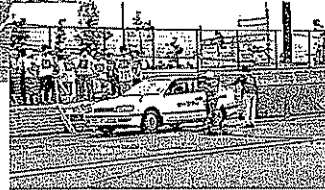
●スキッドコース
自動車2台を用意し、スリップ路面での走行を体験します。



●わだちコース
わだちができたコースを体験し、危険から回避走行を学習します。

自動車体験コース

実際に自動車に乗りながら、急ブレーキ操作や滑りやすい路面と、わだち路面走行を体験するコースです。



交通安全教育カリキュラム紹介

■対象別にカリキュラムを組んで交通安全指導を行います。

主な内容をご紹介します。

■ 幼児から高校生まで…善良な交通社会人、運転者を目指した安全学習

- 保育園・幼稚園児…交通ルールの初歩を学び、道路が安全に歩けるようになります。
- 小学生低学年…交通ルールと危険について学習し、安全な通行が出来るようになります。
- 小学生高学年…自転車の交通ルール・マナーを学び、安全運転能力を高めます。
- 中学生…自転車の点検技能、危険予知能力を養い、安全運転能力を高めます。
- 高校生…将来の運転者及び、交通社会人としての交通ルールとマナーが身につきます。

■ 高齢者・身体障がい者教育…交通社会の中で、交通弱者の立場に立った安全教育

- 高齢者…交通ルール・マナーと高齢者の特性について学び、交通事故から身を守る能力を養います。
- 身体障がい者…道路交通情報を知り、安全施設の利用活用を学ぶとともに、交通事故から身を守る能力を養います。

■ 運転者教育…運転免許取得者を対象とした安全教育

- 一般…交通ルール・マナーについて再確認するとともに、自己の運転特性を知ることにより、安全運転を育成します。
- 安全教育指導者…それぞれの目的に応じて特別メニューを組んで学習を行います。

セーフティプラザみえ

利用方法

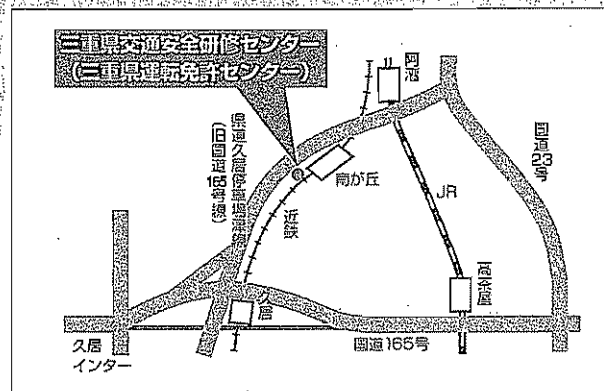
(1) 団体利用の場合

- 利用日＝月曜日～金曜日まで
- 予めお電話にてお申し込みください。

(2) 個人又は小グループの場合

- 利用日＝日曜日～金曜日まで
- お気軽にご来場ください。

TEL 059-224-7721
FAX 059-224-7641



交通の便

(電車利用)

- 近鉄名古屋線南が丘駅下車徒歩10分

(自動車利用)

- 国道23号線津市西阿漕町交差点から県道久居停車場線 (旧国道165号線) で久居方向へ約2km
- 伊勢自動車道久居ICから国道165号線で津市方面へ約3.5km

開館時間

- 午前9時30分から午後4時30分まで 日曜は午前8時00分から午後4時30分まで

休館日

- 毎週土曜日及び祝日
- 年末年始 (12月29日から1月3日)

セーフティ・マイタウンみえ



三笠県交通安全シンボルマーク

～安全は心にゆとりと思いやり～

三重県津市大字垂水2566 TEL059-224-7721 FAX059-224-7641

研修対象別交通安全教育カリキュラム

1 メニュー

- 幼児 小学校（低学年） 小学校（高学年） 中学生 高校生
- 高齢者（歩行・自転車） 高齢ドライバー 一般ドライバー
- 身体障がい者 外国人

2 カリキュラムの例

◎ 小学生（低学年）に対する交通安全教育

研修の目的・目標

- ・ 道路を通行する者の基本的な心構えの確認
 - ・ 歩行者としての基本的な交通ルールとマナーの習得
 - ・ 初歩的な自転車の乗り方の習得
- 上記を通じ安全意識の高揚を図り、事故防止に努める。

研修の内容

◆視聴覚室・講習室◆

- ・ 子どもの交通事故の話（交通安全講話）
- ・ ビデオを使った道路の渡り方、自転車の乗り方
- ・ 雨天時や夜間の危険性

◆展示ゾーン◆

- ・ 四輪事故体験シミュレーションを使った事故体験
 - ・ 展示機器を体験
- シートベルト、チャイルドシート、ジュニアシートの重要性、交差点の危険性、夜間の視認性、内輪差、死角、道路交通法クイズ、車椅子体験等

◆自転車コース◆

- ・ 交通信号の見方
 - ・ 道路の安全な歩き方、渡り方
- 信号機のある交差点・ない交差点、横断歩道のない場所、安全確認の方法、飛び出しの危険性、一時停止の必要性
- ・ 初歩的な自転車の乗り方

◆シミュレータ室◆

- ・ 自動車のブレーキ反応体験（小学生 高学年）

◆自動車体験コース◆

- ・ 人形による飛び出し事故の実演（トラックを使った実演）

◎ 一般ドライバーに対する交通安全教育

研修の目的・目標

- ・ 自己の運転特性の認識
- ・ 安全運転に必要な技能と知識の理解を深める
- ・ 危険予測と悪条件下における緊急時の操作の習得
上記を通じ安全意識の高揚を図り、事故防止に努める。

研修の内容 (利用設備・機器)

◆視聴覚室・講習室◆

- ・ 交通事故の概要
- ・ 高齢者等交通弱者への対応
- ・ 運転者の責任、道路交通法
- ・ 自転車のバランス体験と自転車への対応
- ・ 道路交通法等テスト

◆展示ゾーン◆

- ・ 四輪事故体験シミュレーションを使った事故体験
- ・ 展示機器を体験
交差点の危険性、夜間の視認性、道路交通法クイズ、車椅子体験等

◆シミュレータ室◆

- ・ 危険予測と緊急回避

◆自動車体験コース◆

- ・ 日常点検
- ・ スキッドコース体験
- ・ 急制動体験
- ・ 狭路走行、轍走行

参加回数等研修対象者に応じ、研修カリキュラムを調整・整備し、毎年研修に参加することにより、高い交通安全意識を身につける。

◆自動車体験コース〔実車体験〕(重点項目) ◆

- ① 正しい運転姿勢の徹底 (運転姿勢の違いによりABS効力の差を体験し、正しい運転姿勢の重要性を学ぶ。)
- ② 轍走行 (目線の配り方、車両感覚を身につける)
- ③ 冠水した轍の走行 (雪道の体験)
- ④ 日常点検
- ⑤ 狭路走行
- ⑥ シートベルトの重要性 (正しい着用と効果を後部座席で体験)

◆シミュレータ室〔参加回数別〕 ◆

- ① 「危険予測と緊急回避」シミュレータ体験
危険場面での操作 (ハンドル右、左、ブレーキ) 及び反応速度
- ② シミュレータの使用 (18の場面の組み合わせ)
- ③ 四輪事故体験シミュレータ

◆講習室〔酒酔いゴーグル体験〕 ◆

- ・ 参加回数2回目を対象

◆道路交通法等の問題と解答◆

- ・ 参加回数3回目以上を対象

◎ 高齢者（歩行者・自転車）に対する交通安全教育

研修の目的・目標

- ・ 高齢者の交通事故の特徴と危険性についての理解
 - ・ 身体機能の低下が行動に及ぼす影響の認識
 - ・ 交通ルール等の理解を深める
- 上記を通じ安全意識の高揚を図り、事故防止に努める。

研修の内容（利用設備・機器）

◆視聴覚室・講習室◆

- ・ 高齢者の交通事故の話（交通安全講話）
- ・ 道路交通法の概要

◆展示ゾーン◆

- ・ 四輪事故体験シミュレーションを使った事故体験
 - ・ 展示機器を体験
- 交差点の危険性、夜間の視認性、衝突のエネルギー、道路交通法クイズ、車椅子体験等

◆自転車コース◆

- ・ 安全な歩行（信号の見方、安全確認の方法、道路横断方法）
- ・ 自転車の安全な乗り方
- ・ 電動車いすの安全な乗り方

◆自動車体験コース◆

- ・ 自動車の特性
- ・ 自動車の急制動体験

◎ 高齢者（ドライバー）に対する交通安全教育

研修の目的・目標

- ・ 高齢ドライバーの交通事故の特徴と危険性についての理解
- ・ 身体機能の低下が行動に及ぼす影響の認識
- ・ 交差点の危険性及び悪条件下における緊急時の操作の習得
上記を通じ安全意識の高揚を図り、事故防止に努める。

研修の内容（利用設備・機器）

◆視聴覚室・講習室◆

- ・ 高齢ドライバーの交通事故の話（交通安全講話）
- ・ 運転者の責任

◆シミュレータ室〔参加回数別〕◆

- ① 「危険予測と緊急回避」シミュレータ体験
危険場面での操作（ハンドル右、左、ブレーキ）及び反応速度
- ② おじいちゃんは名ドライバー ～高齢ドライバーの運転傾向～

◆展示ゾーン◆

- ・ 四輪事故体験シミュレーションを使った事故体験
- ・ 展示機器を体験
交差点の危険性、道路交通法クイズ、車椅子体験等

◆自動車体験コース◆

- ・ 高齢者の運転特性 ・ 自動車の特性 ・ ブレーキ操作訓練 ・ 狭路走行
- ・ 急制動体験 ・ スキッドコース体験

高齢者の場合は、自ら繰り返し体験し、身につけることが重要であることから、参加回数にかかわらず同じ研修カリキュラムによる研修を行い、継続して参加することにより効果を高める。

◆自動車体験コース〔実車体験〕（重点項目）◆

- ① 正しい運転姿勢の徹底（運転姿勢の違いによりABS効力の差を体験し、正しい運転姿勢の重要性を学ぶ。）
- ② 高齢者の運転特性を認識（身体能力の低下等）
- ③ 自動車の特性の再認識（死角、内輪差等）
- ④ シートベルトの重要性（正しい着用と効果を後部座席で体験）
- ⑤ 狭路走行

◆シミュレータ室〔参加回数別〕◆

- ① 「危険予測と緊急回避」シミュレータ体験
危険場面での操作（ハンドル右、左、ブレーキ）及び反応速度
- ② おじいちゃんは名ドライバー ～高齢ドライバーの運転傾向～
ハンドル操作、反応速度、ハンドル操作と反射速度の複合動作についてシミュレータ体験

1 小学生以下の利用者の声

- このところにきてとてもよかったです。ここはいいな、ためになるな、と思いました。また、きたいです。
わたしは、車いすのたいけんコーナーがべんきょうになりました。さかみちや、くだりみち、車いすの人のきもちがよくわかりました。すごくてのしかったので、またきたいなと思いました。またいっぱいいろいろたいけんしてみたいです。（小学校1年 Jさん）
- 事故の衝撃がわかりました。それと車の陰からは、人が見えないことが分かった。これから気をつけることは、車の陰から飛び出さないことです。（小学校2年 Y君）
- 私は、ブレーキテストでブレーキがあんなに難しいとは思いませんでした。ゆれるのも、5キロであんなにゆれてビックリしました。自転車で、右には足をついてはいけない、自転車では、左から乗るなどいっぱい覚えめました。手を上げて右、左確認して渡っても「手あげやんでいいんや」とお兄ちゃんに笑われます。でも、自分の命が守られるので悪いことじゃないと思います。だから、交通安全は守ろうと思います。（小学校3年 Sさん）
- 研修センターに行って、一番楽しかったのは自転車でした。一本橋とガタガタ道も出来てジグザグコーンも出来て良かったです。ぼくは、あれから自転車の乗り方をちゃんとしています。（小学校4年 Yさん）
- 研修センターに行って、自転車のあぶない事がよく分かりました。ちびまる子ちゃんのテレビもよく分かりました。体験コーナーのときも、四輪事故体験で「ドンッ」となったので、びっくりしました。あと、車の周り（車の死角）に6人もいるのに、運転席から見ると2人しか見えなかったです。だから、わたしは、車の周りでは遊ばないように気をつけたいです。自転車に乗ったとき、わたしは上手く出来なかったです。これからも自転車のときも歩いているときも「右見て、左見て、後ろ見て」をしたいなと思いました。楽しかったです。（小学校4年 Tさん）
- ぼくは、自転車に乗る時いつも右がわを走っていました。研修センターに行って、自転車を通る道は、左がわということがわかりました。事故は、あったことがないけど、こわいことがわかりました。信号機が青になったら、すぐわたるのではなく、右左見てわたるということがわかって勉強になりました。（小学校4年 Iさん）
- 楽しく学ぶことができました。シートベルトの大切さや、自転車の安全な乗り方など、色々なことが分かりました。友だちを誘ってまた来たいと思いました。

2 社会人の利用者の声

- 運転免許を持たない母と来ました。運転する者の気持ち、歩行者の気持ち、お互い違う目で見てるのだという事が良く分かる。免許を持っていない母に車を運転する怖さを少しは分かってもらえたのかなあ… 今回は、全てを体験しなかったもので、また、次回来たいと思います。ありがとうございました。

- 数年前にこの研修を受けて、ためになったと感じていましたが、今回受けてみて安全に対する気持ちが緩んでいると思いました。
- 「又、注意しているから大丈夫」とか、100%安全はないのだということを常に意識していかなくてはならないと思いました。又、今後も定期的にこの研修を受けたいと思います。
- 日頃、頭で色々考えていることであっても、実体験をすることによって、より明確に交通安全について考えることが出来ました。四輪車に乗らせてもらったの、急ブレーキ・ハンドル操作の体験は初めてであり、身をもって危険が感じられました。どうもありがとうございました。
- 時々片手運転の癖があるので、この研修でもしてしまい、指導員に片手運転でのスラロームを走行してみてくださいと言われて実践してみたが、全くできませんでした。急なハンドル操作には、両手の必要性を改めて感じました。また、運転姿勢を今後気をつけなければいけないと感じました。
- 通常の運転では、あまり体験のできないことをこの研修で受けることが出来ました。いい経験になり、考えることがたくさんありました。
- 年齢的経験数からして運転中、少々不安を感じることもあり、また、反射神経の減退に対し、今後、安全運転が維持できるよう再度受講したいと思います。
- 日常、急ブレーキを踏むことがなく、いざとなったとき対応できるか？でしたが、今回の研修にてブレーキの踏み方が甘いことがわかり、車間を十分開ける必要があることを確認できてよかったと思いました。
- 私が普通自動車免許を取得したのは23歳で今から30年前になりますが、当時の自動車学校においても今回の研修センターのような貴重な経験はさせてもらえませんでした。時代が変わったといえればそれまでですが、
- ・ 速度を維持してのポール通過
 - ・ 乾車道時の急制動テスト
 - ・ ぬれた車道の急制動テスト
 - ・ 障害物（ポール）をジグザグ走行テスト
- しかも、一回目乗車後批評をいただいてさらに二回目乗車で一回目の欠点を補うことができました。今まで漫然と運転していましたが、ドライバーの心構え、急制動時の対応の仕方、路面状況による速度判断、安全運転の秘訣など知らなかったことをご指導いただき、すぐにでも自分の運転に取り入れたいと思いました。
- 今回の研修で、改めて自分の運転を見直すと、教習所で習ったことを忘れていました。初心に戻って、安全運転を心掛けたいと思います。
- また、展示室に交通事故で亡くなった子どもたちの家族の文章が紹介されていました。少しの油断でこうした不幸を起こさないよう、安全運転を心掛けたいです。
- 急ブレーキやスリップするという経験は、今までにしたことがなかったのでごく怖かったです。事故に巻き込まれているわけでもないのに、ブレーキをおもいきり踏み込むというのはと

でも勇気が要りました。でも、この勇気が大切なことなんだということ、この体験をすることにより、知ることができてすごくよかったと思います。

- シミュレーターを使用し、事故の起こりやすい状況で正しい判断ができるかどうか体験した。自分が思っている以上に俊敏さや周囲への注意力に欠けており、ちょっとした気の緩みが大変な事故につながるということをあらためて感じた。今回の研修を今後の運転に生かしていきたい。
- 免許をとってから約4年となり、車の運転に慣れができて、油断することも多くなってきた。今回研修に参加したことで、危険が潜んでいる場面でどのようなことが起こるのかという予測の大切さをもう一度確認することができた。スピードの出し過ぎや無理な運転はせず、歩行者第一を考えたゆとりある運転を心掛けた。普段はめったにしない急ブレーキを体験したことで、車は停止するまでに予想以上に時間がかかるということを確認することができた。また、濡れた路面でのABSの有無による車体操作などは、なかなか経験することがない貴重な体験であった。今回の研修で、安全への意識を高めることができた。実際に車を運転し、体感することで、どうなるのかということ学べたのが、今後の運転にプラスになると思った。この研修にまだ参加したことがない人も積極的に参加するべきだと思う。
- 古い、操作しづらい。プリントがずれて判読しづらい。実情に遠い、より実車に近づけてほしい。研修の意義はあるが、今のシミュレータの機能にやや問題がある。

3 団体（会社法人、学校、町内会等）利用者の声

- 「四輪事故体験シミュレーション」や「ダミー人形を使用しての飛び出し事故実演」は、幼児に見せるには怖いようでもあるが、幼児にとってとてもわかりやすく印象づけられるものである。実際の公共施設で担当の人に指導してもらったり、園で体験できないことをさせてもらうことは、幼児にとってとても良い体験だと思います。（公立〇幼稚園）
- 子どもたちに理解しやすい交通安全教育の内容であったと思います。特に、安全な歩行の実施や補助輪つき自転車の基本的な方法を学ぶことなどは良く、その後も家庭での話す機会となったようです。就学前の園児ですので、自分で身を守る方法を知る場として、研修センターでしっかり学んでいきたいと思っています。（私立S幼稚園）
- 車の運転席からは、車の近くにいる人物が見えにくいことが分かり、車の周囲で遊ぶ危険性について、園児たちに知らせることができてよかったです。一人一人に、丁寧に道路の横断の仕方を指導して頂き、大変嬉しく思っています。次回は、自転車指導もお世話になりたいです。（T幼稚園）
- 普段、園ではできない事故の体験等ができ、シートベルトの大切さや、着用の仕方についても教えていただき、楽しく学べたようで良かったです。暗い道を歩く時の注意点や、反射材についても学べ、とても参考になりました。（S幼稚園）
- 研修後には近くのバス停前の横断歩道でも手を挙げて左右の確認をして渡るなど、子どもたちの交通安全に対する意識も深まったように思います。これが継続できるよう支援していきたいと思っています。（障害児学校小学部）

- 研修内容が前回よりもわかりやすく改良されていて、危険についてよくわかった。自転車の乗り降りの仕方をていねいに教えてもらえた。体験を通して楽しく学習できた。(K小学校)
- ट्रックの死角の危険性や、自転車走行時のヘルメットの着用の大切さがよくわかりました。子ども達に交通事故の恐ろしさも伝わり、何気ないことが事故につながるということが理解できました。また、目を見ながら、子ども達の反応にもこたえていただき、参加型の学習はとてもよかったです。(M小学校)
- ダミー人形の飛び出し実演は、子ども達にとって衝撃的だったようです。自転車やダンボールの車を使って説明をしていただいたので、わかりやすかったです。自転車に乗る時はヘルメットをかぶること、左側から乗り降りすることなど参考になりました。また、ヘルメットを持っていない子どもがまだ多いので、ヘルメットのかぶり方を教えてもらったことがよかったです。(H小学校)
- 「何のために、そういうルールがあるの？」という疑問にわかりやすく答えてもらいました。ヘルメットをかぶるなど、わかっていてもしない子どもがいたり、自転車の右側走行をする子どもがいるので、その危険性が少しでも理解できたと思います。特に低学年から中学年の反応が良く、楽しんで学べました。今回初めて研修をお願いし、とても子ども達が理解しやすくよかったですので、今後もお願いしたいと思いました。(S小学校)
- 自転車の基本的なルールや点検等、自転車全体を教えていただけて良かったです。スラローム走行や傘さし運転等の危険な乗り方、自転車事故の多さの講話は、今後の交通安全教育の参考にしたいと思いました。実技で難しいと感じた部分もあったようですが、楽しくできたという生徒が多かったです。(H中学校)
- いつもお世話になるのは、高校3年生の進路決定者です。「これから免許取得をと考えている生徒にとってとても良い経験だと思った。校内での安全教室も必要だが、疑似体験ができるのが良い。頭だけでは学べない学びがあると思った。」(S高等学校)
- 過日の子供会研修では大変お世話になり、誠にありがとうございました。天候不順なところ、屋外での研修において早朝から心配いただき、又、研修内容においても、より充実したものとなるよう柔軟にご配慮下さり、子どもも保護者も積極的に研修することが出来ました。その上、異例の日曜日という身勝手なお願いにも関わらず、スタッフ皆様が温かく迎えてくださったことに心から感謝申し上げます。研修センターを利用させていただく機会を是非、再び設けたいと思います。又、よろしくご指導ください。(K町子供会)
- 弊社では、20歳代の若者を中心に派遣させていただいています。研修終了後には、弊社でも独自にアンケートを実施していますが、自動車学校で学んだ安全運転の復習だけでなく、交通社会に出て役立つ実践的な研修も受講させていただいているため、すべての者が好印象を持ったと回答しています。(民間企業)
- 自動車は便利なものですが、運転の仕方により加害事故を起こす凶器にもなるので、自動車の「こわさ」を教える実技指導が交通事故防止に有効と思います。(民間企業)

事業シート (概要説明書)

予算事業名	地域文化活動発信事業費	事業開始年度	平成8年度
上位施策事業名	文化にふれ親しむことができる環境づくり	担当部局	生活・文化部
根拠法令	なし	担当室	文化振興室
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	グループ名	文化企画グループ
事業の必要性・実施の背景	<p>三重県は俳聖・松尾芭蕉をはじめ、俳祖・荒木田守武、大淀三千風など、多くの俳人を輩出してきたにもかかわらず、俳句にゆかりの深い地としての三重の認知度は県の内外を問わず低く、この状況を脱するためには、全国・海外への情報発信が必要である。</p> <p>俳句の創作は特別な道具を必要とせず、時間や場所の制限を受けないため、誰もが気軽に取り組むことができる最適の手段である。</p> <p>人や自然など、自己をとりまく環境を見つめて詠む俳句は、県民一人ひとりに地域を見つめなおす機会をもたらすことができ、郷土愛や郷土に対する誇りの醸成につながる。</p> <p>地域の文化を後世に継承させる取組、文化の担い手の裾野を広げる取組は、短期間で成果が現れるものではなく、継続することによって幅広い世代に地域文化を根付かせることができる。</p>		
目的 (何をどうするために)	<p>事業のPRをとおして、「俳句のくに」としての三重県の認知度を上げる。 県民が俳句にふれ、郷土文化の価値を再認識する機会を提供する。</p>		
目標 (何がどうなれば達成か)	<p>より多くの方にたくさんの俳句を創作していただくとともに、三重県の俳句文化について知ってもらおう。</p>		
対象 (誰・何を対象に)	<p>俳句の創作に関心のある者および新たに俳句創作に取り組む者</p>		
実施方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>直接実施</p>		
	<p><input type="checkbox"/>業務委託 又は <input type="checkbox"/>指定管理 (委託先又は指定管理者: _____)</p>		
	<p><input type="checkbox"/>補助金〔直接・間接〕 (補助先: _____ 実施主体: _____)</p> <p><input type="checkbox"/>貸付 (貸付先: _____) <input type="checkbox"/>その他 (_____)</p>		
事業概要	<p>1 俳句応募に関する事項</p> <p>①応募期間 5月16日～10月18日 約5ヶ月間 (平成20・21年度は11月19日までの約6ヶ月間)</p> <p>②応募方法 ハガキ、FAX、インターネット</p> <p>③テーマ H23:「土」 H22:「人」 H21:「国」 H20:「火」</p> <p>2 優秀句の発表</p> <p>①選考 日本の俳句界を代表する俳人4名(有馬朗人氏、宇多喜代子氏、中原道夫氏、星野橋氏)および三重県俳句協会による選考</p> <p>②賞 最優秀賞、選者賞、共催県・協賛市町賞、協賛団体賞、海外特別賞、佳作 小学生・中学生・高校生の部 最優秀賞、優秀賞</p> <p>③発表の方法 表彰式の開催(一般応募・最優秀賞) 県ホームページ「三重の文化」での入賞句掲載 角川学芸出版による句集刊行</p> <p>3 「俳句のくに・三重」のPR</p> <p>①実施案内送付によるPR (県内外の小中高等学校、県内市町、都道府県、過去の参加者・参加校、高齢者福祉施設など)</p> <p>②県内外におけるチラシ・投句箱の設置</p> <p>③県ホームページ等による広報およびメディアによる報道</p> <p>④県内イベントへの参加</p> <p>⑤日本まんなか共和国(滋賀・岐阜・福井・三重)におけるイベントへの参加</p> <p>4 多様な主体との連携・協働</p> <p>①日本まんなか共和国各県によるPR・入賞賞品の提供</p> <p>②県内市町、企業・団体からの入賞賞品・応募者プレゼント提供</p> <p>5 俳句文化担い手の裾野を広げる活動</p> <p>①学校教育での取組の推奨</p> <p>②俳句インストラクターによる子どもを対象とした吟行</p> <p>③俳句教室(平成21年度から指定管理事業にて実施)</p>		
事業内容 (手段、手法など)	<p>※当該事業以下に細事業がある場合は、事業費とともに記載</p>		
関連事業 (同一目的事業等)	<p>文化活動連携事業費</p>		

事業シート (概要説明書)

予算事業名		地域文化活動発信事業費				事業開始年度		平成8年度		
		23年度 (予算)		22年度 (決算)		21年度 (決算)		20年度 (決算)		
コスト	事業費	報償費	1,361千円	1,245千円	912千円	1,352千円				
		委託料	868千円	1,018千円	860千円	860千円				
		需用費	781千円	632千円	888千円	947千円				
		役務費	876千円	126千円	126千円	158千円				
		その他	124千円	148千円	4千円	142千円				
		事業費合計	4,010千円	3,169千円	2,790千円	3,459千円				
		人件費	担当正職員	0.5人	4,504千円	1.0人	9,516千円	1.5人	14,205千円	1.5人
		臨時職員等	2.0人	4,234千円	2.0人	4,188千円	2.0人	4,178千円	2.0人	4,134千円
		人件費合計	2.5人	8,738千円	3.0人	13,704千円	3.5人	18,383千円	3.5人	18,149千円
		総事業費	12,748千円	16,873千円	21,173千円	21,608千円				
財源内訳	国庫支出金		千円	千円	千円	千円				
	地方債		千円	千円	千円	千円				
	その他特財		4,010千円	3,011千円	1,449千円	千円				
	一般財源		千円	158千円	1,341千円	3,459千円				
	財源合計		4,010千円	3,169千円	2,790千円	3,459千円				
事業実績	活動実績	【活動指標名】	単位	H23年度 H23.7末現在	H22年度	H21年度	H20年度			
		事業案内チラシ印刷数	枚	250,000	98,000	125,000	204,000			
		キャンペーン・俳句教室実施回数 () 数値は指定管理事業	回	4 (2)	0 (3)	0 (1)	42			
	効率的指標 (事業数/活動指標)	総事業費 / 事業案内チラシ印刷数		0.05	0.17	0.17	0.11			
事業成果	成果実績 (事業目標達成状況)	【成果指標名】	単位	H23年度 H23.7末現在	H22年度	H21年度	H20年度			
		投句数累計	句	2,348,251	2,328,569	2,258,633	2,184,864			
		各年度投句数	句	19,682	69,936	73,769	91,950			
		キャンペーン・俳句教室参加者数 () 数値は指定管理事業	人	478 (81)	0 (77)	0 (56)	2,128			
		県外・海外投句数	句	未集計	46,373	45,063	55,126			
事業の自己評価 (今後の事業の方向性、課題等)	<p>県内外で認知度を向上させるとともに、県民が地域の様々な魅力について学び、活動の輪を広げて行くことができるよう、引き続き、「俳句のくに・三重」の活動を通じて三重の文化を発信していく必要がある。近年、広報予算の削減等により応募数が減少しているため、これまでの実施方法を見直し、効果的なPRを行う必要がある。</p> <p>小学校学習指導要領の見直しにより、平成23年度から国語教育において、俳句の学習時間が増加することから、日常においても、子どもが俳句にふれる機会を増やす取組が必要である。</p>									
比較参考値 (他自治体での類似事業の例など)	<p>芭蕉路塚忌全国俳句大会 (主催:「大垣」全国俳句大会実行委員会、事務局:大垣市教育委員会)</p> <p>投句数: 32,056 (H22) 40,627 (H21)</p>									
特記事項 (事業の沿革等)	<p>平成8年度四日市港をメイン会場に実施された「第11回海の祭典」の開催テーマである「めぐみとゆめの海へ」にちなみ開始。選者はマスコミでも新進気鋭の俳人として著名な黛まどか氏を起用。三重県を「俳句の国」として全国に発信するための有効な手段として、また、「俳聖・松尾芭蕉の地における俳句文化の浸透」を目的に、海の祭典以降も毎年継続することとなり、今年度17回目の実施に至る。</p>									